130th Anniversary
DOKKYO GAKUEN

独協通信

題字・天野貞祐

第81号
平成25年12月20日発行
発行所　〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1
TEL／FAX 03（3946）6352（直通）
獨協同窓会　発行責任者　浅野　一

主な内容

獨協学園創立130周年式典挙行される ……（1）
平成25年度通常総会・懇親会開催される ……（3）
獨協中学・高等学校奨学金拡充のための寄付について ……（4）
OB講演会「私の人生観とこれからの社会」 ……（4）
和のおもてなしを極めるわが友 ……谷口有三…（6）
平成25年度文京区姉妹都市ドイツ・カイザースラウテルン市公式訪問報告
……萩野元祐…（8）
獨協祭参加報告 ……沖山秀司…（9）
OB会 活動報告 獨協祭への参加を募集しています ……（10）
昭和37年卒同期会・卒業後初の開催に100名集合 ……山本康雄…（10）
クラス会だより ……（12）
菅野博文君のデュオ・リサイタル ……（16）
私の近況 ……（17）
年会費納入にご理解とご協力をお願いします ……（24）
編集後記 ……（24）

http://www.dokkyo-mejiro.com　獨協同窓会 検索

獨協学園創立130周年式典挙行される

平成25年10月22日（火）、獨協中学・高等学校前の椿山荘にて学校法人獨協学園創立130周年記念式典・講演・祝賀会が挙行された。

来賓として、文部科学大臣下村博文氏、駐日ドイツ連邦共和国大使フォルカー・シュタンツェル氏、日本私立大学連盟会長清家篤氏、医学教育振興財団理事長小川秀興氏をはじめとする多くの参列者を迎え、獨協大学の管弦楽団の演奏の中厳粛に開式となった。

式典は獨協大学学長犬井正氏の開会の辞に始まった。

はじめに学園を代表し、理事長寺野彰氏の式辞があった。式辞では理事長は獨協学園の沿革を紹介され、学園の今後の課題などについても以下のように話された。

獨協学園は1883年（明治16年）に独逸学協会学校として発足しました。獨逸学協会学校は、ドイツの文化・法律などを中心に西欧の進んだ文化、制度を移入するため、西周、品川弥二郎、桂太郎らが組織した獨逸学協会が設立したものです。獨逸学協会学校は、獨逸学協会設立の目的であるドイツの文化、法学、医学、文学、哲学などの分野における人材の育成を目指しました。その後旧制獨協中学校は、我が国の法曹界、医学界をはじめ日本社会に数多くの優秀な人材を輩出してきました。特に、医学界においては、戦前・戦後を通じて、ドイツ医学を重んずる伝統があり、獨逸学協会が果たした役割は決して小さなものではなかったものと自負しています。

第二次世界大戦後は、獨協中学校にとって困難な一時期がありましたが、新制の中学・高等学校として再出発することができましたが、なお混迷の時が続きました。

こうした獨協中学・高等学校の窮状を救ったのが、獨逸学協会学校卒業生の天野貞祐でした。先生は京都帝国大学でカント哲学を学び、一高校長などを経て、第三次吉田内閣の文部大臣に就任されました。獨協中学・高等学校の状況を憂える関係者の要請に応え、母

校の校長に就任した天野先生は、哲学に立脚した自らの教育理念をもって生徒を導いたのです。

教育にかける天野先生の情熱は、天野先生を中心に大学を創ろうという大きなうねりとなり、天野先生と並んで「獨協学園中興の祖」と位置付けられている関湊理事長を得、多くの関係者のご理解とご協力があり、学園創立 80 周年の昭和 39 年 4 月獨協大学を創設しました。初代学長に就任した天野先生の、「大学は学問を通じての人間形成の場である」に凝縮される教育理念により、大学は年々発展を遂げ、現在では「語学の獨協」を柱にして経済、法学の分野にも拡充を図り、また最近では国際教養学部や外国語・経済・法学部に新学科を開設するなど、その地位をゆるぎないものとしてきました。

さらに、学園関係者の間で、明治以来の獨協の伝統である医学の道を志す者への医学教育を実践したいとの要望が湧きあがり、関湊理事長はこうした関係者の熱意に支えられて、医科大学の設立に奔走しました。そして、昭和 48 年 4 月、栃木県壬生町に獨協医科大学が開学します。その後、大学病院、附属看護専門学校を設立したのに続き、埼玉県越谷市に越谷病院、栃木県日光市に日光医療センターを設立し、更に看護学部も新設しました。

昭和 55 年には、獨協学園としては二つ目の高校となる獨協埼玉高等学校を設立しました。

更に、昭和 62 年 4 月、全国初となる公私協力方式により、兵庫県姫路市に姫路獨協大学を設立しました。

平成 13 年には、獨協埼玉高等学校に中学校を併設し、首都圏における教育基盤の拡充を図ることができました。

こうして、本学園は、130 年の時を経、３大学、２高校、２中学、１専門学校並びに合わせて 2,100 病床数を有する３病院、中学生から大学院生まで学生・生徒数 15,000 人、教職員数 4,500 人を擁する予算規模 900 億円超の学校法人に発展・充実しました。

昨今の我が国における私立学校の運営は容易なものではありません。近年、定員割れの私立学校が増える中で、いかにして社会そして地域の皆様の期待に応えていく学校にしていくかが問われております。そのためには、安定した学校運営と学生・生徒を中心に据える教育という当然の任務を、教職員がしっかりと認識することが大切であります。

本学園は、先に述べました「天野理念」に基づいて、多様化する教育ニーズに対応できるような教育者の充実、本学園の伝統である国際交流の重視、キャンパス・アメニティの充実、情報公開、コンプライアンスの堅持、これらを通じての主体的な、創造性の高い人格形成を目指し、社会的・国際的貢献のできる人材を育成いたす所存であります。本日ご出席の皆様方を始め、関係の皆様方の一層のご理解と絶大なるご支援を切に願うものであります。

理事長の式辞に引き続き、文部科学大臣下村博文氏の祝辞が、国会会期中とのことで高等教育局私学部長小松親次郎氏により代読された。

獨協学園は初代校長西周の「知育」、「徳育」、「体育」の三育の提唱を基礎とした教育が行われ、14 万人の卒業生が輩出したこと。そして、現在の社会状況を考えると今後我が国が持続的な発展を遂げるには社会の将来を切り拓き、創造できる有為な人材育成が期待され、その一翼を担うべく私学の発展が期待されること。また、獨協大学の初代学長天野貞祐先生の「教育愛こそ本学園の情熱、人間教育こそ本学園の精神」という教育理念、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の精神に基づき大学教育に取り組んでいること。さらに、国際交流の一貫として大学に「日独連携推進室」が設置されたことに触れ、今後の学園の発展への期待を述べられた。

駐日ドイツ連邦共和国大使フォルカー・シュタンツェル氏は流暢な日本語で公的な日独交流も大事ではあるが、市民レベルにおける日独交流がますます進展することの意義を力説され、その一端を担うべく獨協学園の役割は、今後ともますます重要になっていくことが期待されると話された。市民レベルの国際交流の活発化が国際平和にも大きく貢献するものと思われる。

次に、日本私立大学連盟会長清家篤氏からのご祝辞が述べられた。

獨協学園の前身の独逸学協会学校の設立の経緯に触れ、北白川宮能久親王、品川弥二郎らが、当時、英学、仏学に基礎づけられた私学に並ぶドイツの文化、学問を学ぶ場として設立されたことを紹介された。私立大学の多くがそれぞれに創立者の高い志のもと設立されたことを紹介され、獨協大学については、大学創立者である天野貞祐先生の「大学は人間形成の場といわれるが、大学における人間形成という意味が十分に考えぬかれているのであろうか。学問を媒体とした人間形成が大学の本質でなければならない。」という理念を引用され、現在の教育界の状況をみると天野先生のこの問いかけを私学人が銘記すべき言葉であると考えられると話された。

そして、現代社会は政治、経済、社会の複雑化に伴い、先が見えない時代となっている。従来の延長線上で問題解決ができる時代ではなくなっている。このような時代には社会の基盤としての豊饒な文化が不可欠であり、時代の変化に柔軟に対応するためには、教育や文化の多様性が重要となってきている。このような時代にあって、私学の役割は重要であり、獨協学園もその一翼を担うべく国際交流、キャンパスアメニティ、情報公開の推進などに努力されていることを紹介され、獨協学園の関係者諸氏が今後とも建学の精神を礎に発展されることを祈念するとして祝辞を締めくくられた。

最後のご祝辞は、医学教育振興財団理事長で、順天堂大学の理事長でもあります。小川秀興氏から頂戴した。

小川氏からは、独逸学協会学校初代校長西周と順天堂大学の創設者である佐藤泰然の関係を紹介された。

順天堂大学の創設者である佐藤泰然の長女のつるは林洞海に嫁いだ。この林洞海の六男が西周の養子となり西紳六郎と名乗り、海軍中将、貴族院議員、宮中顧問官を歴任したことが紹介された。

また、森鴎外の曾祖父の次男、森覚馬が西家を継いで生まれたのが西周で、森鴎外は上京後の一時期、西周邸から通学したことなども紹介された。

こうした経緯はあまり知られることはないが、明治

の初期に哲学者西周と医師佐藤泰然の関わりが浅からぬものであったことを知り、両校の関わりを知るうえで貴重な話題でもあり、明治初期の洋学が広まっていく時代の雰囲気が伝わるエピソードに、一堂驚いた次第である。

式典は獨協医科大学学長稲葉憲之氏の閉会の辞で滞りなく終わった。

この後、獨協医科大学とも交流のあるドイツミュンスター大学副学長シュテファン・ルートヴィッヒ氏の記念講演「国際的学術交流の意義と未来」があった。

ミュンスター大学はオランダとの国境に近いドイツ連邦共和国の都市でノルトライン＝ヴェストファーレン州にある。ミュンスター大学は約３万９千人ほどの学生の在学する総合大学で、シュテファン・ルートヴィッヒ氏は分子ウィルス学の研究者でもある。先生のご専門とは異なるテーマではあるが、学術交流が国際的に展開されることについて具体的に獨協医科大学の学生との交流を紹介しながら、また、大学のある街の様子なども交えて紹介された。最後に副学長シュテファン・ルートヴィッヒ副学長から寺野理事長に記念のメダルが贈呈され、和やかな雰囲気のうちに講演会は終了した。

講演の後は会場を変えて、祝賀会となった。

祝賀会は姫路獨協大学学長本多義昭氏の開会の辞に始まった。寺野彰理事長のご挨拶に引き続き、獨協同窓会会長浅野一氏のあいさつがあった。浅野氏は独逸学協会学校が明治時代の黎明期に明治憲法発布、第一回帝国議会開催に先駆け設立されたことに触れられた。そして、独逸学協会学校専修科第一回の卒業生 13 名および中学第一回の卒業生 4 名に始まる同窓

会の歴史を紹介された。卒業生は司法、医学の分野に多くの有為な人材を輩出し、明治時代からの国づくりに貢献したことも紹介した。学園として、昭和 39 年に獨協大学が創設されたのに続き、医科大学、看護専門学校、埼玉獨協中学・高等学校、姫路獨協大学の開設と社会の要請にこたえるべく学園として充実が図られ、多くの卒業生を世に送り出した。

そして、これからも、日本の将来に貢献できる人材を輩出することが期待されると同時に、このような学園で学べたことを卒業生とし感謝するとともに、これからの 140 年、150 年に向けて母校を後援し、発展を見守りたいと話された。

祝宴では余興として、獨協・中学高等学校の生徒による演劇「坂の上の獨協」と獨協埼玉中学高等学校の吹奏楽部生徒による「ヨーロッパコンサート再演」が披露された。

祝宴は多くの関係者の絶好の交流の場となり、その後もそれぞれに獨協学園の繁栄を祈念しながら歓談は続いた。

平成 25 年度通常総会・懇親会開催される

通常総会

平成 25 年 6 月 15 日獨協中学・高校小講堂にて開催された。議事に先立ち、スポーツにおいて優秀な成績を収めた生徒５名（ラグビー部３名､スキー部２名）が紹介され、同窓会よりそれぞれ５千円の図書券が贈呈された。また、渡辺校長の挨拶に引き続き、例年通り図書費として 20 万円が贈呈された。

浅野会長より、会長就任後１年が経過し、前任者との引き継ぎが概ね順調に行われ、財務状況の改善、会則の変更、組織の充実化など、現在取り組んでいる諸問題に今後も継続して対処し､さらに会員に向けては、同窓会への関心をさらに高めていただくような様々な企画を考案し、実行していきたい。また、獨協学園創立 130 周年記念に際し、全面的に協力していきたいと挨拶があった。

議事に入り、平成 24 年度事業報告、収支決算、続いて平成 25 年度事業計画案、収支予算案につきそれぞれ説明があり､いずれも異議なく承認された。また、同窓会財務拡充・支援のための寄付を募集する件も異議なく承認された。

懇親会

総会後、例年通り椿山荘にて開催された。浅野会長の挨拶に引き続き、ご来賓の渡辺校長、永井前校長のご挨拶があり、さらに新宮先生より獨協学園創立 130 周年にあたり獨協の歴史をかいつまんで紹介していただいた。

イベントとしてまず新入会員（新卒業生）の紹介があり、代表者より参加へのお礼が述べられた。次に獨協同窓会ドクターズクラブ、歯科医師獨協会、柔道部 OB 会より活動報告がなされた。特に柔道部 OB 会はたくさんの会員が参加し、これまでの活動の様子や現役生徒たちへの支援についての報告があり、参加者より絶賛の拍手が送られた。

会員、ご来賓、先生方との交流の場であり、また同じ学び舎に通った様々な年代の同窓生の想い出を語りあう懇親会であるが、年々参加者が僅かずつ増えているものの、比較的若い世代を中心にまだまだ参加者が少ないのが現状である。執行部としては、同窓会へのご理解とご支援をいただけるような活動と、さらに皆様が興味を持たれるような企画を立て実施していく予定でいます。

最後に参加者全員で校歌を斉唱し、閉会となった。

獨協中学・高等学校奨学金拡充のための寄付について

獨協中学・高等学校奨学金は平成16年獨協学園創立120周年を記念して設置された。これまで10年間にわたって経済的事情で就学が困難な生徒を支援するために一人当たり月額3万円給付してきた。奨学金を希望する生徒の数は例外的に14人となった年もあったが、当初4人から8人程度で推移していた。しかしながら昨今の経済的事情からここ数年は希望者が2桁台となり、基金も継続的に減少してきており、創立130周年事業の一環として基金の強化を図るべく、同窓会はじめとして関係団体が寄付を行うこととなった。

そこで、今春の同窓会総会においてこの寄付についても皆様にお諮りし、多くの方々の賛同が得られましたので、同窓会としても学校の要請に応え、寄付をする事としました。

寄付金は、平成25年10月22日、獨協学園130周年記念式典当日に同窓会の浅野一会長より渡辺和雄校長に「獨協学園130周年記念事業における奨学金予備資金」として贈呈しました。これにより、奨学金予備資金も増強され、多くの学生へ奨学金を支給することが出来、経済的な理由による就学への障害が少しでも緩和されることが期待されます。

右記に渡辺校長からのお礼が同窓会に届きましたのでご紹介します。

獨協同窓会　会長　浅野　一様

この度は，創立130周年記念事業として獨協中学・高等学校奨学金基金の増強による奨学生の支給人数増に、暖かいご理解を頂き感謝申し上げます。同窓会、後援会、ＰＴＡの皆様より各1000万円、計3000万円の寄付を頂くことで、奨学金基金は格段の増強が図れることになりました。

本奨学金は学園創立120周年記念事業として創設、これまでに70名の奨学生を支えております。基金の増強により奨学生数を原則6名から10名に増やし、増加にある奨学金希望に応えることが可能となりました。同窓会の皆様に心から感謝申し上げます。

獨協中学・高等学校　校長　渡辺　和雄

獨協学園130周年記念事業における奨学金増資のための寄付募集

先にもご報告したとおり、獨協中学・高等学校奨学金基金への寄付を同窓会として行いましたが、現在の同窓会の資産状況は依然として厳しい状況にあることから、基本財産からの取り崩しで対応して居ります。そこで、奨学金基金の寄付を目的として同窓会の会員諸兄から寄付を募り、奨学金基金の寄付に充当しようと考えています。なお、寄付金に不足する分につきましては同窓会の財産から補填する考え方で進めていこうと考えて居ります。寄付金は、一口10,000円とし、一口以上何口でも喜んでお受けさせて頂くこととしました。寄付に当たっては、同封の振込用紙をご利用ください。

寄付者一覧（平成25年12月4日現在）

塩崎國夫（昭19）
神山一郎『芽城会』（昭20）
堀田重光（昭22）
横田日出男（昭24）
宮田和夫（昭24）
中嶋眞治（昭25）
朝比奈貴次（昭27）
桑嶋陽一（昭29）
山本康雄（昭37）
S37年卒同期会（昭37）
久保田　稔（昭39）
柳原　克忠（昭39）
櫻田　可人（昭40）
森田　芳和（昭41）
海田　正則（昭42）
浅野　一（昭42）
三村　秀夫（昭42）
宮崎　輝雄（昭42）
黒岩　茂（昭43）
庄司　裕昭（昭45）
新井　雅安（昭46）
木原　正義（昭47）
谷田貝　茂雄（昭51）
鈴木　政彦（昭52）
遠藤　裕三（昭53）
谷口　有三（昭53）
神谷　善弘（昭57）
入交　重雄（昭59）
戸張　敦雄（第19代校長）

大島町の「ホテル椿園」被災

昭和49年卒清水豊典さんが経営しておられた東京都大島町の「ホテル椿園」台風26号により被災し、再建のめどが立っておられないとのことです。日頃から「私の近況」では島の様子などお伝えいただいて居ります。心からお見舞い申し上げますと共に、再建後は是非同窓生で守り立てて行けたらと思って居ります。なお、「ホテル椿園」のホームページは以下の通りです。　http://tsubakien.net/

OB 講演会「私の人生観とこれからの社会」

獨協同窓会と中学・高校の共催で在校生向けに卒業生が語りかけると言う趣旨で、今回初めて講演会が開催された。第一回目の演者は昭和 41 年卒の株式会社ジェイティービー（JTB）の代表取締役社長田川博己氏であった。

講演会は平成 25 年 4 月 24 日午後に獨協中学・高等学校 100 周年記念体育館にて中学 3 年生、高等学校 1 年生を対象に行われた。

まず最初に簡単に田川博己氏について、昭和 41 年卒で、慶応大学を卒業され、当時の日本交通公社に入社され、平成 10 年に現在のＪＴＢの代表取締役社長となったことが渡辺校長から紹介された。

田川氏の講演に先立ち、JTB の企業紹介ビデオが上演された。お伊勢参りの御師（おし）の話から始まり日本交通公社の歴史と高度経済成長に際し、ヒトの交流が盛んになった今、旅行業の社会的意義が紹介されるビデオであった。

以下、田川博己氏の講演の要約を紹介する。

田川氏は、中学・高校在学中のエピソードとして修学旅行で九州へ行った時のことから話しはじめられた。当時の修学旅行は東京から大阪まで鉄道で行き、大阪からは瀬戸内海を船便で大分の別府まで行ったとのことである。別府は氏の社会人になって初めての赴任地でもあり、赴任地が別府となった時に何かの縁を感じたと言っておられた。

また、当時の天野校長とのかかわりの中で、初代校長が西周であることを知り大変驚いたと言っておられる。氏は小学校のころに切手を収集している中で、人物切手の中で最も高額な切手が西周のものであったことを思い出してのことである。西周が偉大な哲学者であることを天野先生から直接教わったとのことである。

進路の決定に当たってのエピソードは在校生にも示唆に富む内容であった。氏のお父様は工学系の技師をしておられたとのことで自然と理科系に関心があったとのことである。そのこともあり、高校 3 年時に数学Ⅲを学習した際に、非常勤講師の先生の指導で難問を解く中で数学の問題の解答は一通りでないことを知り、その面白さに気付いた。そのようなこともあり、当時国土の全国総合計画の動向もあり、土木工学を志すようになった。しかし、入学試験に失敗し、予備校に通うこととなった。そのさい、予備校の講師に、交通経済学なる分野があることを聞きそちらのほうに関心が移った。その結果交通経済学が学べる慶応大学の商学部に入学した。

大学では、もちろん交通経済学を学んだわけであるが、クラブ活動で卓球部のマネージャとしての逸話を披露された。氏は獨協在学中はバレーボール部に所属していたが、背が低いこともあって、大学ではバレーボールを続けられなくなり、獨協の先輩に誘われ卓球部に入部した。しかし、卓球はバレーボールと勝手が違いうまくならなかったことで、ずっとマネージャをやっていた。マネージャとして後輩の相談に乗る中で、高校時代に天野先生がおっしゃっていた「過去には感謝を、現在には信頼を、未来には希望を」ということばを後輩に伝えたところ、その言葉がとてもいい言葉であるとその時感じ、それ以降氏の座右の銘となった。そして、JTB の社長となった時にその言葉を毛筆で書いて社長室に掲げているとのことである。そして、あるとき部下の者がこの言葉をインターネットで検索した結果を報告しに来て、この言葉が天野先生のオリジナルではなく、ドイツの哲学者であるオットー・ボルノー（Otto Friedrich Bollnow）であることを知った。そして、ネットでの紹介文のあとにこの言葉が、JTB 社長田川博己の座右の銘であることが記されていることを知り、驚いたとも紹介している。

このような、座右の銘をもってそのことを意識しながら自己の生活や仕事を考える意義を強調された。

また、大学時代には友人と与論島へ出かけた。当時はまだ沖縄が日本に返還される前だったので、沖縄と与論島の間に国境があり、国境を体験した。また、高度経済成長のさなかだったので、東京の空気は汚く、河川も汚染されていたのに引換え与論島の人たちの生活は豊かで、美しい環境の中にあることを経験した。

大学時代には大阪万国博覧会があり、日本の人口の半分に当たる 6500 万人が観覧した。この出来事が、多くの人々が移動する時代を予見することとなり、旅行業界へ就職するきっかけとなった。大学では交通経済学とくに道路経済学をやっていたので、流通業への就職もあったが、人の移動にかかわる仕事への興味が募り、結果として日本交通公社へ就職することとなった。

高校から大学にかけての多くの経験が自分の将来を決めるのに影響したのだと思うと言っておられた。

さて、社会人として日本交通公社に入社したわけだが、順風満帆の会社人生ではなかった。最初の赴任先は冒頭でお話ししたように別府であった。当時は新入社員の仕事は海外からの観光客の御世話で、別府駅で外国人の 20 数個にもなる荷物を運び、列車に積み込むことだった。小さい体で荷物を運ぶのは大変で、停車時間の短い間に積み込みはできたものの、列車のドアが閉まり降りれなくなり、次の停車駅中津まで行ってしまった。中津は大学の創設者の生家があることを思い出し、そのまま別府へ帰らず、福沢諭吉先生の生家を見学してきた。まだまだのんびりしていた時代か

もしれないが、このような者が将来社長になるのですから。このような失敗もあったが、仕事の面白さもわかり、そうしたことには拘泥せずに、住めば都ときっと将来は良いこともあろうと「過去には感謝を、現在には信頼を、未来には希望を」の銘を心に仕事をつづけた。

別府での勤務の後、本社の国内旅行部に戻り、旅行商品の企画を担当された。当時の旅行代理店の仕事は切符の販売が主でしたが、このころから宿泊券の販売も主力になりつつあった。宿泊券と交通機関の切符をセットにした商品の開発です。

ところで、氏の趣味はタウンウォチッングと電車の中吊り広告の観察とのことです。中吊り広告にはその時代のトップクラスのコピーライターが作ったキャッチフレーズがたくさんあり、時代の趨勢を読み取る絶好の場でした。そんなことが背景にあって、新商品のコピーとして「泊まって、食べて、ポッキリ 5 千円」というコピーでセット商品の販売を進めました。今ネットなどで盛んに宣伝されている形態の旅行商品のひな型は氏が作ったものでした。

その後、今から 30 年前、日本交通公社が 70 周年を迎えた時、係長としてイベントの企画立案の責任者となり「杜の賑い」というイベントを企画しました。この企画は現在でも引き続き行われており、先日も沖縄で 30 周年記念のイベントが開かれました。自分の企画が社長になっても続いていることはとてもうれしいことだと言っておられた。

氏 43 歳の時、当時はルック JTB とパレットと呼ばれる二大ブランドがあり、次の時期の主力商品の決定にかかわった。利用客はパレットが上回っていたが、これからはルック JTB で進めることを決め、社長に進言した。結果、2 年後にはルック JTB の利用客は 3 倍になり、100 万人となり予定の 3 年より早く目標の達成が出来た。こうした決断の時期は人生においては何回かあるもので、良い決断ができたと思っているしこうした決断ができたのは、現場の社員の力によるものと言っておられた。

その後、川崎支店長、米国での海外勤務を経て、平成 12 年には営業企画部長として本社に戻り、平成 20 年に社長となったが、これまでの氏の経験を通して生徒たちに向けて伝えたいメッセージがあるとして、次のような話をされた。

現在はインターネットの時代であり、グローバル化が進展している時代である。みなさんが社会人として活躍されるときには、過去が参考にならない時代になるかと思う。その時よって役立つものとはなんでしょうか。問題に遭遇したときに、答えは身近な所にあるものです。偉い人が答えをもっているのではなく、答えはそれぞれの人の中にあるのです。自分の中にある答えを探し出せる力が求められるのだと思います。

旅行業は切符やパックの旅行を斡旋するだけではありません。旅には力があります。具体的には、交流の力、文化の力、経済の力、教育の力そして健康の力です。日本の旅行業全体の経済規模は 24 兆円といわれています。これに対して広告業は 10 兆円です。さらに、旅行業は関連する鉄道、バス、航空さらには農家民泊なども含めるとその波及効果は大きく 50 兆円規模の産業だといわれています。地域経済へ大きく働きかけることのできる産業でもあります。ところで政府は観光立国を掲げ、その戦略の初めに「住んでよし、訪れてよしの国づくり」を提唱しています。この意味は、自分の生活の場を大切にすることが、その土地へ訪れる人の魅力となるということです。

私も大学で講義することがありますが、学生に 2 つのことを話しています。

一つは成長と発展の違いを知ってほしいということです。成長はその大きさが大きくなることです。子供が体格を大きくして大人になるようなことです。これに対して、発展はその本質、内容が大きく変化することです。ただ、大きくなるのではなく、その本質が変化することが大切だということです。

次に、現在は成熟した社会となっています。全てが揃っているかに見える時代です。しかし、新たなものを開拓する視点を持ってほしいと思っています。そのためには、若い人たちがそれぞれに人間力を身に着けてほしいということです。人間力は観察力と集中力が基礎となり、さらに、コミュニケーション力を鍛えてほしいと思います。そして、シナリオを作る能力、物語を作る能力を身に着けてほしいと思っています。

最後に、自分の特徴を知り、自分に合ったものを見出してほしいと思います。そのためにはパスツールの言葉が大いに参考になるものと思います。「偶然は準備のある者に恵ものである」であります。常日頃から様々なことに関心を持ち、観察をし、どんな問題があってもいつでもチャンスを逃さない心構えを持っていくことが大切だと思います。

講演のあと、生徒からの質問もあり、生徒への良い刺激となった講演会であったかと思われます。

最後に、同窓会会長の浅野一氏よりこうした先輩の話を一つの参考として、将来について考える機会としてほしい旨の締めくくりがありました。

次年度以降も同窓会、学校でこのような企画を進めて生きたいと考えています。

和のおもてなしを極めるわが友
欧州初の割烹温泉旅館　スイスの『兎山』を訪ねて

昭和 53 年卒　谷　口　有　三

目白時代 、並みときどき薄曇りの成績で潜伏していた私には、勉強が出来て、学祭で目立って他校の女子達にも人脈があるクラスメートが羨ましく、すでに当時から “ 格差社会 ” を感じる高校生であった。ただ「獨協生は社会の優等生であれ」と絶えず朝礼での小池校長のお言葉と、「人生は長丁場だ」と 50 才年の

離れた父の言葉で、大器晩成、物事先送りでいこうと自分に言い聞かせた。

倉林正文君もその羨ましい、文武両道、硬軟両方、さらに帰国子女だから日独両方のカルチャーを身にまとった今ならば ハイブリッド車みないなスペックの人間だった。そんな彼には当然のように私はやっかみもあり、大学に進むともはや会うこともなく、その後大手証券会社に就職したという風の噂だったが、とくにどうでもよかった。そして、昭和の終わりころ彼はスイスの支店に行き、私はフランクフルトに駐在したがその時も一度も連絡を取らなかった。

しかし、近年むしょうに彼を訪ねてみたくなっていた。それは、私に彼の動向をいつも教えて下さった主管の合田憲先生が 2011 年に急逝されてからだ。

というのは、先生がお元気だった頃「倉林がスイスですごい日本旅館を建てたぞ」と伺っていて、その時の先生は実際に奥さまと現地にいらっしゃったそうでさぞ感動されたようだった。合田先生には、私が同窓会執行部に入るまでずっと人生の大半にわたり、長いご指導を頂きながら何も恩返しができず大層悔やんでいたが、倉林君が 1 組を代表して恩返しをしてくれたんだと思うようになった。

今年の 6 月欧州出張のついでにチューリッヒに足を伸ばした。初めてのチューリッヒだったので観光後、倉林君が市内に迎えに来てくれた。実に 35 年ぶりの再会であった。

ポルシェの 4 輪駆動の高い助手席に乗せてもらい目指すは､旅館名『兎山』の由来であるハーゼンベルグ。お互い 35 年の過ぎ去った時を喋るためスイスならではの美しい車窓景色も、つけっぱなしのテレビ番組のように意味なく流れてしまった。実際所要時間もわからなかった。

母校の前の坂道と同じくらいの勾配の山道を登り詰め、古い小さな礼拝堂のある丘が終点、ハーゼンベルグに着いた。日本旅館と言いながらも、景観に配慮しながら外観は大きなテラスと陽が沢山入る大きな窓の近代的なリゾート建築である。玄関を入ると和装の若い日本人女性の出迎えを受ける。そして、まずレストランに足を踏み入れるとそこはモダンな造りだが日本が漂う。鮨カウンターにはやはり日本人板前さんだ。陽は高いが時計は 6 時、従業員さんたちは準備に追われていた。聞くところによると十数人の従業員さんは全員日本人であるが、板前さんは一流料理人、そして仲居さんたちは、着物の着付け、華道、茶道の 2 つが出来て、これに英語力がないと採用されないという。海外には怪しい日本食レストランが蔓延っているので、正しい日本文化を伝えるためには重要だ。メニューも当地の人々の嗜好に関わらず本格懐石を出すところに、彼の使命感意識を垣間見た。あまりウロウロしていては邪魔になるのでテラスからアルプスの大パノラマを鑑賞する。写真ではその美しさが再現できないのが残念であるが、まさにユートピアである。ディナータイムになりお客さんが増えてきた。各テーブルが程良く埋まり、楽しい会話が聞こえてくる。スイスドイツ語だったり、フランス語だったりでよく聞き取れないが、スイスに居ながら日本を体験できるというこの旅館の価値を楽しんでいるようだった。

私も畳の個室で倉林社長とゆっくりと、手の込んだ正にアートとして世界に誇る京懐石を頂いた。

そばに寄りそう女将さんは、かつてアイドルを目指したというだけあって可愛い奥さんだ。ちょうどＮＨＫ朝ドラマ「あまちゃん」を放送中なので、なんとなくイメージが重なった。

そして、和室も設えたスイス・アルプス 全景を見渡せる部屋に戻り、静かに日が落ちていく稜線を眺める。部屋についた露天風呂に漬かって星空をみれば、この旅館のミシュラン評価 1 つ星に、「ちょっと辛過ぎないか。」と文句も出てくる。

倉林君　僕の評価では 7 つ星だよ。自分だけの隠れ家にしたいチューリッヒの奥座敷であるが、今、柳原常任幹事が推進される獨協人の集まれる場所の一つに登録したく、ご紹介させていただいた。

因みに、世界的権威のレストランのガイド本 「ミシュラン」 の 2009 年版で、日本旅館で初、和食店として大陸欧州で 3 つ目となる「 1 つ星」を獲得、以降も連続してミシュランブックには掲載されている。獨協同窓会と言えば、チューリッヒ国際空港へオーナー自らお迎えに来てもらえる。

Hotel Restaurant Ryokan Hasenberg / Usagiyama
Hasenbergstrasse 74
CH-8967 Widen
Tel. 0041 (0) 56 648 4000
Fax 0041 (0) 56 648 4001
http://www.hotel-hasenberg.ch/t3/

平成25年度文京区姉妹都市ドイツ・カイザースラウテルン市公式訪問報告
10月19日（土）～23日（水）

獨協中学高等学校　保健体育科教諭　昭和 49 年卒　**萩　野　元　祐**

この度、平成２５年度文京区姉妹都市公式訪問団の一員としてドイツ・カイザースラウテルン市を訪問させていただきました。

カイザースラウテルン市は先の大戦で市の約 60％が破壊されたとはいえ、中世の面影を色濃く残した落ち着きある街という印象を強く受けました。

滞在中は、朝食をレストランオープン時間の６時３０分、一番乗りでレストランに入りすませ、まだ薄暗いうちから１時間ほど散策をするのがその日の始まりでした。早朝の街は空気が澄みわたり静かで気持ちの良いものでした。

１０月のドイツは日本で言えば１２月の気候と聞いてはいましたが、我々の滞在期間中は天候に恵まれ、日中は 20 ～ 25°と上着がいらないと思う日もあったほどでした。

私の一番の役割は２０日（日）、カイザースラウテルン工科大学体育館で行われる柔道の講習会。カイザースラウテルン市のクラブ会員は１０５名の中から上･中級者２１名（９名は女子）の方が参加しました。午前中は準備運動から始まり、受け身、立ち技を１時間、寝技１時間という内容で行いました。１時間が経過したところで「休憩を入れますか」と問うと、「そのまま続けてください」というように皆さんの真剣かつ熱心な姿勢に２時間という時間の経過がとても早く感じられました。その熱心さは午前講習が終了した後も上級者が質問に来るほどでした。

午後は現地の女性の方々による迫力ある和太鼓演奏をはさみ合気道４０分、柔道４０分という時間でデモンストレーションというプログラムとなり、柔道は約３０分の講習後、技の披露をさせていただきました。

終了後一人の少女が笑顔で私に近寄り「先生、ありがとうございました。」と日本語でお礼の言葉をもらいました。その言葉を耳にしたとき、今回の一番の目的である交流、友好の一役担えたかなと思えた瞬間でもありました。

視察ではシーメンス、フィリップス、ＩＢＭをはじめ、日本からは日立、東芝、リコー、ＮＥＣ、ＳＯＮＹなど、ドイツ国内はもとより世界のトップクラスの企業が資本参加しているドイツ最大の情報工学・ソフトウエアの研究所「ドイツ人工知能研究センター」や世界の IT 関連企業の拠点として躍進する「フラウンホーファー実践的ソフトウエア工学研究所」を訪問しました。ここでは、ソフトウエアの研究の最先端をいくのは勿論のこと、大学と企業の橋渡し、企業が欲しがる技術者、人材育成とその様々な役割を果たしていることを知りました。そしてカイザースラウテルン市が研究機関の密集、研究者と企業のネットワークできているなどの条件を備えた市であること、まさしくＥＵのシリコンバレーとも呼ばれ、この分野の振興によって一層の発展を目指している市であることを強く実感させられました。

また清掃工場（ＺＡＫ）視察では､両国の共通問題、課題でもあるエネルギーシフト、再生可能エネルギーへの積極的な取り組み、環境重視からのごみ処理、徹底したリサイクルなど見習うべき多くの点を目の当たりにし、環境教育を推進している我が校が抱えている課題の対策のヒントもいただきました。

さらに市民の人気、憩いの場となっている欧州最大の日本庭園では、その手入れの行き届いた庭園はまるで日本にいるかと錯覚を覚えるほどの素晴らしい庭園でした。

その他 16 世紀のプファルツ伯城遺跡の施設内にある歴史深い迎賓館での歓迎会、そして地下道遺跡などを見学できたことなど、歴史好きの私にとっては貴重な場となりました。

カイザースラウテルンを離れる日のシュティフト教会の外に流れ聴く「君が代」、「さくら」などのパイプオルガンでの演奏などカイザースラウテルン市の数々の「おもてなし」にはたいへん感激しました。

一足先の帰国は残念ではありましたが、ほんとうに有意義で充実した４日間を過ごさせていただきました。

今回、このような貴重な機会に参加させていただいたことに深く感謝申し上げるとともに、これから一層の交流が深まることをお祈りしてご報告とさせていただきます。

獨協祭参加報告

獨協祭参加実行委員長　昭和42年卒　沖　山　秀　司

会場風景

「獨逸同学会」を起源とし、「獨逸学協会」をベースに開校した「獨逸学協会学校」を前身とした獨協学園は、今年の10月22日に130歳の誕生日を迎えました。これを前にして、我が校の校祖「品川彌二郎」が今年度の獨協祭発表テーマとなるのは、極自然な流れでした。

品川彌二郎が吉田松陰の愛弟子である事は、有名な史実です。彼は、激動の幕末維新の中を松蔭の意志を継いで生き抜いた「誠と志」の人でした。そして、明治維新において多くの功績を残しているにも拘らず、この期に活躍した多くの人の中で、品川彌二郎の名があまり表面に出ていないと感じるのは何故なのでしょうか。純粋な熱血志士であり、愛情豊かな暖かな優しい心の持ち主で愛妻家。往復はがきを考案したのもそうですが、何か事を起こす時は適任者を見つけて、自分が目立つ事のないように振る舞ったといいます。これらの事がそれを物語っているようにも思えます。

明治新政府は、いかに建国すべきかと苦慮していた中、普仏戦争の視察を品川彌二郎・板垣退助・大山巌の３名に命じたのでした。品川彌二郎は、普仏戦争に勝利したプロイセンの国勢を目の当たりにし、”範はドイツにあり”とドイツに残り、政治・経済・法律・軍制・医学・教育などあらゆる情報を持ち帰り、そして更にドイツ学研究を深めるために「獨逸学協会」を、人材育成のために「獨逸学協会学校」を、北白川宮能久親王をはじめとし西周・桂太郎・加藤弘之・青木周蔵・平田東助・山脇玄らと共に創設したのでした。130年に亘る獨協学園の流れの中で、品川彌二郎ら先人達の貴重な熱い思いが、多くの逸材を輩出する事に繋がったと云えるのではないでしょうか。

品川彌二郎は、滞獨中特に注視したのが信用組合でありました。これを日本に移植する事を考え、平田東助と共にその設立に尽力しました。しかし残念ながらその成立を見ずに、この世を去ったのでした。現在私達の回りを見渡すと、様々な形の協同組合が数知れず存在しています。彌二郎は、空の上でこの事をきっと大いに喜んでいるに違いありません。

品川彌二郎の人と成りを全て表現するには至りませんでしたが、ご来場の方々へ少しはお伝えする事ができたのではないかと思っております。今年度は獨協学園本部の取材があり、PTAの方々から熱心な質問をお受けしたり、「獨協の歴史に振れられることが毎年楽しみです」などと同窓会の展示場を楽しみにいらして下さる方々に接することができました事は、大いなる喜びであり感謝に堪えません。また、この貴重なブースをお借りして、我が校の歴史の扉を開く事がいかに有意義であるかを認識させられた機会ともなりました。

今回の展示及び小冊子作成のために、惜しみなく資料をご提供下さいました多くの方々：山口新聞本部・主査の小野泰司様、下関市立長府博物館・館長の古城春樹様、京都大学付属図書館・参考調査掛の赤澤様、京都東山・正法寺の河井住職様、京都霊山歴史館・主任学芸員の木村様、そして獨協学園本部資料センターの中村女史をはじめとするスタッフの皆様と獨協中学・高等学校図書館の皆様に、更には展示物作成と小冊子発行にご尽力をいただきました株式会社王文社・鈴木社長様に、またお忙しい中を時間を割いて準備と後片付けにご協力を下さいました同窓生の方々に、心より厚く感謝申し上げます。

学園本部の取材

PTA役員から熱心な質問を受ける

OB 会 活動報告
獨協祭への参加を募集しています

同窓会では毎年、獨協祭に参加し「獨協の歴史」をテーマに資料展示をしています。
そして、OB 会の活動報告コーナーも設営。今年は、獨協同窓会ドクターズクラブ、歯科医師獨協会、サッカー部、柔道部、がパネル展示を行いました。

限られたスペースですが、参加を希望される OB 会を募集致します。
ご希望の OB 会は下記アドレスへ、メールにてお申込みをお願いします。

info@dokkyo-mejiro.com

昭和 37 年卒同期会・卒業後初の開催に 100 名集合
～ 51 年ぶりに再会し、古希を寿ぐ～

昭和 37 年卒　**山　本　康　雄**

昭和37年に母校獨協高校を卒業した同期生一同は、卒業後 50 年以上にわたり、1 度も同期会というものを開催したことがなかった。それほど纏まりの悪い同期生が、平成 25 年 10 月 20 日、齢 70 歳にして初めて一堂に会し、青春時代に戻って共に古希を祝い合う機会が持たれたことは、この上ない喜びであった。しかも今年は、獨協創立 130 年という記念すべき年に当る。卒業生総数 350 名のうち 102 名の同期生が、あいにくのそぼ降る雨をものともせず、午後 2 時より原宿駅近くの南国酒家・迎賓館の会場にノスタルジアを求めて参集した。以下、発起人会設立以降、開催までの概要をお話しさせていただく。

南国酒家・迎賓館の会場には受付段階からガヤガヤと再会を喜び合う一団が増えていったが、その中には唯一ご臨席いただいた恩師がいらっしゃった。1 組のご担任・小島晋治先生は 90 歳近いご高齢にも拘らず、集まった往年の健男児たちにお元気な声でご挨拶を戴いた。併せて、獨協同窓会より副会長の竹内文生様、幹事長の木原正義様のお二人にもご来賓としてご挨拶をいただく光栄に浴することができた。(その中には「これほど大規模な同期会が開かれたことは聞いたことがない」とのお褒めの言葉が添えられた)。中には岩手県一関市や石川県金沢市の遠方から馳せ参じてくれた者もおり、懐かしき友情と同期の絆の強さには、改めて感激させられた。

そもそも決して纏まりが良いとは言えない同期生だった。様々のグループで親睦を兼ねた仲間内の交流は続いていたが、全7組のうち殆どの組は正式なクラス会すら催されたことがなかったと聞く。たまたま前年(平成24年)1月に、いくつかのグループ間に共通する何人かの世話役の声掛けで、卒業50周年を祝う会が英語クラスの約30名が集まって銀座で開かれた。次回は是非とも古希を迎える年に記念祝賀の同期会を開くことで意見が一致した。同年12月には、中高一貫して獨協で過ごした数名から、折角の古希祝いはドイツ語と英語クラス全員に声を掛けて、37卒同期全員で古希を祝おうと決議され、橋本設夫君(7組)を代表として各クラスからの発起人を1～3名ずつ決定して、本年1月に発起人会が発足した。「獨協学園昭和37年卒古希記念同期会」という長たらしい正式名称が決定した。

準備期間は約10か月。最初の作業は名簿整備に集中した。先ずは名前と顔の一致が最重要なだけに、4組田中君が作成してくれた卒業アルバムによるクラスメートの顔写真と同窓会名簿の合体したものを頼りに、クラス単位で氏名と住所確認が徹底的に行われた。電話での探索もさることながら、ネットでの検索も頻繁に行われた。その結果、220名の所在が判明し、同時に30名強の同期生が幽明境を異にしている悲しい現実も知らされた。

発起人13名は、当初こそ銀座の桃杏楼で会食しながら、周辺情報の収集作業を行ったが、3月からは経費の削減と本格的なより緊張感のある会議にしようと、2組関口君・堀内君の尽力で駒込の六義園近くにある文京区の勤労福祉会館の貸会議室を利用することとなった。同時に、各発起人幹事の役割分担を決めて、7組住友君が総取り纏め役となって、都度議事録を作成して欠席者への意思疎通を図りながら、組織的にも機能的にも効率よく準備が進展していった。

特に留意された点は、会場設定についてである。前期高齢者であることを考慮して、交通の便が良いこととコストパーフォマンスが最重視され、木村(旧姓：星)君(5組)と橋本君が経費削減の折衝に努力してくれた結果、南国酒家に決定した。

会場決定と同時に、開催の趣旨と日程を予告した第一報が1組の勝(旧姓:岡)君と一寸木君が作成し、住所判明者に郵送された。住所不明の返送覚悟で送ったものだが、実際の返信は極わずかで5・6件に過ぎず、名簿の精度の高さに一同大いに安堵した。

また、会当日の受付での混雑を避けるため、会費の前納を決め、口座開設等の会計係には3組の寺田君と筆者・山本(康)が受け持つこととなった。第二報は出欠確認の返信はがきと会費の振込用紙を同封され、7月初めから順調に会費の納入が始まった。

9月初旬には、出席者がほぼ80名と確定し、財政に苦慮されている同窓会への寄付金の想定額を含む会全体の収支予測が算定され、一人平均2500円相当の寄付金(総額20万円)の目途が見えてきた。その後の参加者増と経費削減の努力の結果、獨協同窓会への寄付金贈呈の実額は32万円となり、37同期会の強い結束と母校への恩義をささやかながら表することができたことは形骸の喜びである。

次に当日の式次第の詳細計画が話し合われ、記念写真や収支報告の事後郵送することは更なる経費増につながるため、全て会の当日に迅速かつ円滑に実施する方策が検討された。すなわち、会の開催直後に集合写真を2グループに分かれて撮影し、前田君(6組)と山本(昭)君(1組)が会を抜け出してプリント作業に当ってくれ、会の終了前までに全員への配布が完了できたのだ。飲食もできずに貢献してくれた二人には、頭の下がるほど感謝するとともに、協力体制の良さを示すことができた。

和やかな雰囲気に会が進んだのは、ウィットに富んだ軽妙な司会進行役の木村君の統率力によるところが大きく、各テーブルのクラス代表からコメントをもらい、座の盛り上がりに貢献した。最後に橋本君による『フレー、フレー獨協』のエール交換を元気よく行って、再会を約して終演となった。同会場内に設営された2次会会場にも35名の仲間が、別れを惜しみかつクラスを超えた交流が延々と続いた。

最後に、これを機会にドイツ語・英語クラスの交流が図られたことも大変意義深いものであった。恩師のご来臨の実現もドイツ語クラスの担任であった小島先生がお元気であったればこそ、である。わずかこの1年間の短い期間にも拘らず、殊の外、独・英クラスの壁を越えた発起人幹事の結束の強さと円滑な役割分担能力には、素晴らしいものがあった。それは健康である限り7年後の喜寿記念の同期会が、祝いと祭りムードの年・第2回東京五輪（プラス卒業60周年記念の時期）に併せて必ずや開催できるのではないかと予測させるほどの好関係が醸成されたことである。また、各組のクラス会の開催も定例化するキッカケになったことが予感される。

そして高齢になっても、母校の中興の祖・天野貞祐校長先生から戴いた『日に新たに、また日に新たなり』の気概を忘れることなく、地道な努力により一大イベントとして古希記念の同期会が盛大に実現できたことは、歳をとっても『諸君は可能性そのものである』という謹言を確実に実践できた証であろうと自己満足頻りの幹事団一同である。

その幹事団は以下の通りである。(順不同・敬称略)
1組(独)：勝 正伸、一寸木孝義、大野正昭
2組(独)：関口英臣、堀内信宏、鈴木 剛
3組(英)：寺田泰五郎、山本康雄
4組(英)：田中 聰
5組(英)：木村 聰、斎藤昇一
6組(英)：前田良祐
7組(英)：橋本設夫、住友史人

37卒同期会の皆様から同窓会へご寄附

37卒同期会からこれまで同期の皆が同窓会費を滞納していたとのことで、その罪滅ぼしとの趣旨で、多額のご寄附を頂戴しました。是非とも会の運営に有効に活用していきたいと考えています。
37卒同期会の皆様、同窓会役員一同心より御礼申し上げます。

クラス会だより

昭和20年卒　芽 城 会

平成25年5月19日新宿小田急ハルク8階『楼外楼』でクラス会を開いた。集まった級友は14名であった。昨年は新たに6人ほどの友が冥界に旅立った。卒業時150人いた友も、今では遂に48人になってしまった。集まった14人も加齢の為の何らかの故障を持つものばかりであった。黒沼君から同窓会の現状報告があり、獨協130周年に向けて同窓会で奨学金の寄付を募集していることを報告したところ、出席者から当座応分の寄付を募り、会の基金からそれに追加し『芽城会』としてまとめて10万円を寄付することになった。その後各々それぞれの近況を話してもらい、あっと言う間の3時間が過ぎ、来年の再会を約して解散となった。
出席は、池田正樹、畦森公望、岡田太一、木村保、黒沼昭夫、佐藤徳重、鈴木勘也、根本達久、馬場弘二郎、平澤昭彦、村田昭一郎、米田武、牧豊、神山一郎であった。　（文責：神山一郎）

昭和20年卒　第37回トロッコ会

平成24年7月7日、第37回トロッコ会が開催された。いつもいつも出席されていられた、大久間先生が居られないトロッコ会（戦時中の動員、陸軍兵器補給廠でトロッコを押していた）になりました。大久間先生は私どもが獨協に入学した時、はじめて国語の先生を担当されたということで、私どもの学年はことの他印象が深いと申されていました。
この学年は、生物は田淵先生、英語は野口先生、歴史は西村先生、国語は大久間先生と、思えば、もっとも獨協らしい、リベラルな雰囲気をかもし出した先生方でした。
われわれがトロッコ会に集うとき、いつも先生方の話が出ます。もちろん戦時中の大変な話も出ますが、歳をとりますと獨協の自由な教育と、アカデミックな雰囲気の思い出が脳裏をかけめぐります。
今年も、7月7日に杉並の一隅の小さなレストランで思い切りしゃべり会いたいと存じます。今年は、84・85歳の老いた方々が元気をしぼり出して集います。
（写真は、24年7月7日のものです。）（記：石井 進）

昭和25年卒　大 豆 会

平成25年10月10日（木）例年の如く霞ヶ関ビル35階東海倶楽部で開催した。昨年出席者9名と絶滅が危惧されたが、アベノミクスのおかげか、12名と増加し「吾が大豆会は不滅です」と、世話人としてとても嬉しかった。
恒例にしたがい、近況、健康状態などについて語り、時の過ぎるのも忘れた。もう人生大概のことはやりつくしたが、ここまで生きたのだからせめて米寿までは、いや東京オリンピックを見て死にたい、切りのよいところで90まで、などと光輝高齢者達は限りなき欲望を吐露して散会した。会の終わりに近く、中村雅美君からクラスの元気者だった江川保二君が昨年死去されたと報告があり、さらにたった今、中嶋眞治君から鈴木規允君が昨日11月16日死去されたと電話があった。大変残念で悲しい。ここに心から両級友の冥福を祈る。
故人森寺章滋君の奥様、由枝様から高橋邦武君を介

して、大豆会のためにお使い下さいと３万円の御寄付をいただいた。この５年来、獨協通信に寄稿して同窓会からいただく１万円で、通信費、写真代等なんとか遣り繰りしても持ち出し気味だったので、心から感謝して有意義に使わせていただきたいと考えている。

次回大豆会は、平成 26 年 10 月９日（木）午前 11 時 30 分、霞が関ビル 35 階、東海倶楽部

出席者：

前列左から：西田隆一、染谷尚、平沢精一、高橋邦武、北條浩

後列左から：石川洋、吉田隆史、中村雅美、斉藤義治、松田務、中嶋眞治、本田光芳（敬称略）

（本田光芳・記　平成 25 年 11 月 17 日）

昭和 28 年卒　第21回 双葉会

来年は八十歳を迎える高齢となり、二年に一度のクラス会も出席者が限られてきました。

会場も初めての大塚・ホテルベルクラシックに決まり、６月 29 日（土）に開催し、11 名の参加者と共に楽しい一夕を過ごしました。毎回の出席となりました赤松さんが奈良の遠方よりおみやげ持参で参加され、阿部さんは介護病院よりタクシーで駆け着け、趣味の野鳥写真を全員に配っておりました。

皆さん共通話題は、健康管理の方法等の事になり、来年以降のクラス会は形式を変え、時間も考え直し、出席した人の為の双葉会にしてゆく様、立て直すことに致します。その時迄元気にと散会いたしました。

（酒井、村上、佐藤幹事）

昭和 31 年卒　ドイツ語クラス　クラス会

６月５日　有楽町　コパン・コパンで 31 年卒クラス会を開催しました。

恩師　富岡先生のお宅にクラス会の開催とご夫妻のご都合をお伺いのため連絡をいれたところ、先生は体調をくずされ、病院との打ち合わせの最中とのことでしたので、今回のクラス会の件は伏せることにしました（後日　先生はしばらくの間通院して様子を見守るとのことでした）。

全員出席でも 13 名なのに、出席常連の大谷寿男君、芦屋の小野史男君、山口和生君の３名が体調不良で欠席。13 名中９名の出席と少々少な目のテーブルとなりましたが、そこはそれ酒席の常　時が進むにつれ、各自が過ごした青春のひと時を語りあい、その時間にタイムスリップ……

１日１日を大切に少しも変わらぬ日々を過ごしている自分に想いをめぐらしているうちに　あっという間にお開きの時間。次に会う日を楽しみに　会を閉じました。

（記：山口眞護）

獨協 37 年会同窓会（古希記念旅行）

今年 37 年卒は古希を迎えるのでゆっくりと旧交を温めようと、３月 17 ～ 18 日に熱海の錦城館で一泊の同窓会を開催しました。60 人に連絡をとり 13 人が参加しました。（11 人が体調不良、28 人が先約、返事なしが 18 人）温泉に入り、初参加の溝口武郎、吉野巌（森田）、野村徹也の諸君を中心に会は盛り上がり２次会のカラオケ、３字会の懇話会と続きました。出席を楽しみにしていました小島晋治先生は期日の５日前に転んで大腿骨を骨折し入院、手術をなされました。経過は良好だそうです。お大事に。

（記：幹事　大野正昭）

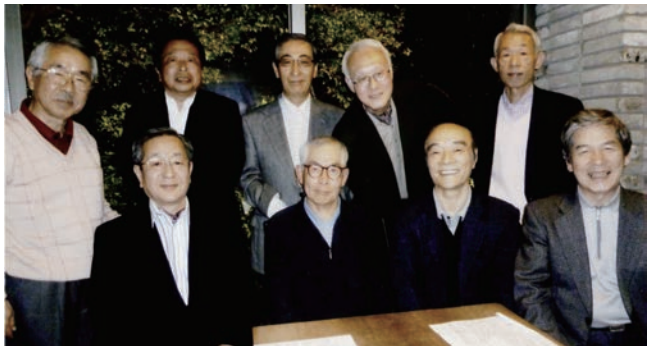
昭和 38 年卒　古川38会

９月１６日、日本列島縦断の台風の前日、開催が危ぶまれましたが無事スタート。今年で９年連続開催の古川３８会は、例年通り新宿のドイツ料理店カイテルにて、出席者は２３名となり過去最高となりました。今年のメインゲストは体育の横山武人先生で、７８歳とは思えない元気さでした。会場は丁度満席で、大変な盛り上がりとなり、諫早君の司会から始まり、古川先生の３回忌報告、横山先生のご挨拶、一人ひとりの現状報告、渡部君のエールによる効果斉唱とあっと云う間の２時間半でした。その後二次会を経て、夕方５時過ぎに解散となりました。一方、同窓会には毎年ご援助いただき感謝いたしております。同窓会経営の不振を全員に伝え、同窓会費の振込用紙を渡しました。少しでもお役に立てればと思います。

昭和 38 年卒　英語クラス同期会

人々を楽しませた桜花の余韻も終わり、今日は小雨の静かな夜である。恒例の 38 年卒英語クラスの同期会が、平成 25 年 4 月 20 日、例年とおり上野公園内「韻松亭」にて開催され９名が集う。今回の話題は、この１年間で親など人生の終末を経験した３人の気持ちのあり様から始まる。静かに迎えた人、自ら医師でも施設の医師に問題ありとする人、日々終末医療に直面する医師は最終的には家族の意志次第であると指摘する…高校時代を思い出す意見交換。そして、会社経営を子供に移行した由、又は現在検討中人の言も輪廻か。最後に、この会合は異業種分野に従事する人の集まり故に、その持つ意味の共有と、ある人の、この会への出席が励みとなる旨の発言をもって散会となる。

（辻　定利・記）



昭和 39 年卒　同 期 会

7 月 15 日（日）大塚、ホテルベルクラシックに於いて、新宮先生、上林先生、横山先生、本田先生、吉田先生、をお迎えし、そして、浅野同窓会長にも参加頂き、一層盛況な会となりました。例年通り喧騒の中、次回参集の約束をして解散しました。

浅野会長からは、創立 130 周年記念行事（本年 10 月）に向けた寄附金募集の説明があり、一同、賛同しました。

昭和 39 年卒（東京オリンピック開催年）の我々は、来年、卒後 50 周年を迎えます。次回（平成 26 年）の同期会を盛大に開催したいと思います。大勢の方のご参加・ご連絡をお待ちしています。

幹事　柳原克忠　sakura.873.8739@ezweb.ne.jp
080-1084-6629

昭和 41 年卒　墓参クラス会報告

私たちは昭和３５年からの中学３年間、１組神田直人先生のクラスでした。その神田先生は３年前の１０月１５日に亡くなられました。先生の出席されないクラス会は芯が取れてしまったようで、なんとなく締まらない気がします。でもこれもだんだん慣れてきました。

去年のクラス会で「カメさんの墓参りをしよう」という声が上がりました。そこで今年は命日からすこし過ぎた１０月１９日、都合のつく者が集まって麻布十番へ出向き、神田先生のお墓参りをしました。

墓参のあと、麻布十番から近い JR 目黒駅近くの居酒屋へ移り、クラス会を開きました。クラス会から合流した者も加えて１８名が参加しました。ここ数年ではもっとも多い人数です。

私たちは今年、出会ってから５３年が過ぎた６６歳です。全員が年金受給者です。クラスの半分以上が定年を迎えてリタイヤしています。これがクラス会に参加者の増えた原因のひとつです。

クラス会はいつものように、マンネリへまっしぐらの５０年前の話で盛り上がりました。会が進むにつれてあちこちで席の移動が始まり、佳境へ突入しました。やがて想い出話が一段落したころ、各人が近況報告を行いました。全員が報告を終えたあと、集合写真を撮っ

て解散しました。
今年６月に石原君が亡くなりました。これで１組の物故者は７名になりました。私たちのクラスは５４名でしたが、６６歳にしては多いような気がします。１組は健康に気をつけないといけないぞ！と思いました。また来年元気な顔を合わせて想い出話に花を咲かせましょう。（中村昭美 記）

昭和 41 年卒　獨協１月会

獨協１月会 48 回　平成 25 年１月 19 日（土）に開催しました。場所：にんじんや　高田馬場店
今回の幹事は、私中村が引き受けました。残念ながら津川先生は欠席でした。
出席者は、梅木文義君、江藤雄一君、河崎達彦君、小杉喬志君、斎藤幸一君、藤井哲夫君、堀江重之君、福島広樹君、森田芳和君、下村博一君、長村洋君、山本淳君と私中村昭美の 13 名、昨年は伊東温泉で上林先生をお招きしましたが、今回は昨年の計画通り高田馬場で開催し、５年間欠席の藤井君も参加してくれ、48 年ぶりの再会で参加してくれた、山本君は今まで浜松に在住しておりましたが、これからは、東京在住になるので参加できるとのことでした。
皆 65 歳以上を迎え、それぞれの人生の話をしてくれました。これからも、まだまだ社会の一員として生き抜いていく話を語ってくれました。
一年一年の安否確認をする為のクラス会になるかもしれないけど、まだ元気で参加者がいる限り続けて行こうと参加者全員で確認ができました。
我々の会は獨協中学の時主幹だった、神田先生のご指導をいただいた生徒なら誰でも参加できる会です。今回は堀江君に飯能銘菓の「四里餅」の土産を買ってきていただき、ご家族のお土産にしていただきました。

来年は、平成 26 年１月 18 日（土）に開催予定、場所はまた追って連絡します。（幹事：中村昭美）

昭和 45 年卒　獨 窓 会

2013 年９月 14 日（土）18 時より御徒町山海楼にてクラス会（獨窓会）を行いました。1964 年東京オリンピック開催の年に入学、1970 年大阪万博の年に卒業のドイツ語クラス１組、出入りはあるものの 35 名のクラス、中１～高３までクラス替えはなし。時空を超え、悪餓鬼に戻った瞬間でもありました。
出席は金先生を含めて 12 名、先生が初めて受け持ったクラス。現在、金先生が 72 歳、生徒が 62 歳か 63 歳。
今回のクラス会は、青木・飯沼・河内ひ・藤玉君の４名が呼びかけました。（河内君は当日、姻戚？に「不幸」があり、欠席。藤玉君は 20 時、途中退席したため、写真には写っていません。）昨年も同時期に開催しているので、人数が少ないかと思われ（昨年は 16 名）ましたが 12 名集まりました。（出席率 34.3％）
２次会（９名参加）はカラオケ。あっという間の４時間 30 分でした。次回開催は未定ですが、みな、健康で元気に再会出来ることを願いつつ 22 時 30 分に散会しました。（青木記）

昭和 49 年卒　金有一先生3組クラス会

平成 25 年 11 月２日（土）渋谷マークシティー内「菜な」にて金有一先生をお迎えしてクラス会が行われました。今回はこの１年で他界した八丁敏郎君、横山耕平君を偲んでの献杯からはじまりました。いつ

もの通り昔話に盛り上がり、近況報告、二次会と楽しい時間を過ごしました。次回の幹事は千葉君、補佐が萩野です。たくさんの出席を期待しています。

（幹事・八丁順子、補佐・萩野元祐）

昭和 53 年卒　酉の市五三会

今年も恒例「浅草酉の市五三会」が開催されました。11 月 15 日（二の酉）20 時 30 分より、たわら町「日本海」において懇親会で杯を酌み交わし、その後、鷲神社へくりだしお酉さまもうで。和やかで楽しいひと時を過ごすことができました。（鈴木 記）

昭和 53 年卒　獨協ハーフ会

去る 9 月 7 日 (土) に恒例の獨協ハーフ会 (昭和 53 年獨協高校卒業生有志の会) が『 咲くら 銀座店』にて開催されましたのでご報告致します。当日は生憎冨岡 卓先生は急遽欠席されましたが、15 名の同期が銀座に集い楽しく飲み語らいました。村上光広・佐藤恭道両君など初参加組もいて卒業以来 30 数年ぶりに再会した者もおり話は尽きず、一同獨協生に戻り全員二次会までお付き合い戴きました。

来年もまた九月上旬をメドにお声掛け予定です。

同期の皆さん、我らも齢 50 代半ばとなり今だに悩み多く (仕事・育児・子育て・親の介護・自身の健康問題などなど) いろいろな意味で大変な時期であるとは思いますが、7 年後東京オリンピック開催も決まった事ですし、人生ハーフもう一踏ん張り頑張りましょう。（幹事　西原 由恭）

昭和 60 年卒　３年５組クラス会

７月 20 日（土）に主管田村先生をお招きし、クラス会を四ツ谷「胡桃屋」にて開催致しました。

このクラス会は５年連続の恒例のものとなっております。本年度は先生を含め９名の参加と例年よりは小規模なものとなりましたが、皆の盛り上がりはパワーアップしております。

そろそろ５０歳の足音が聞こえつつある我々ですが、気持ちは１７歳に戻れるこの会はずっと続けていきたいと感じております。来年も元気で集まりましょう。

平成 6 年卒　第 2 回 獨協 94 年度卒同窓会

昨年に引き続き塩高・道津の声かけにて、去る 2013 年 8 月 24 日に中濱のお店（沖縄カフェダイニング３３（サンサン）：品川）に 94 年度卒の同期 17 人が集まりました。顔を合わせれば、約 20 年ぶりの者も、当時話したことがない者同士でも和気藹々。卒業アルバムを開いたりしながら、当時さながらの盛り上がりとなりました。卒業 20 周年の節目を迎える来年は、大々的なイベントを開催したいと思っております。卒業アルバムの住所録を軸に年内にも同期の皆々様にご連絡させていただこうと思っておりますが、連絡がつかないことも予想されますため、詳細の確認も兼ねて主幹事の塩高顕一郎まで Facebook もしくはメール（shioken5074@yahoo.co.jp）にてご一報いただければ幸いに思います。何卒、宜しくお願いいたします。（田林・記）

私の近況

●背中管狭窄症による歩行困難で、外出出来ず困っております。級友も２・３人となり、淋しくなりました。もうすこし頑張ってみたいと思っています。母校の一層の発展をお祈り致します。　＜湯浅幸男（昭 13 卒）＞

●前回の同窓会には、同期の者の出席がなく、寂しい限りでした。 趣味の音楽で現在中野区交響楽団に参加､春･秋二回のコンサートの為の練習の毎日です。(楽器バイオリン)　＜小澤武彦（昭 14 卒）＞

●御蔭様にて、一応元気にて毎日を大過なく生活をしております。同期卒業生も年齢が最低でも卆寿を過ぎております。同窓会に協力が出来ずお許し下さい。同窓会執行部の誘いに厚く御礼申し上げます。獨協通信を有難く拝読させて頂いています。

＜福本　博（昭 15 卒）＞

●獨協通信第 80 号大変参考になりました。櫻田様の「我が校の 130 年の歴史」、畦森様の「戦時中の獨協生活」等、大変興味深く拝見しました。又、小山校長には弓道部開設の際、日置流弓道（範士）を直接ご指導を戴いたこと等も、懐かしく思い出しました。現在歩行難渋のため遠出不能、昨年末に老婆が認知症のため共々介護ホームに入居いたしました。

＜倉谷三男四郎（昭 16 卒）＞

●昨年米寿を無事のりきり、卒寿を目指し生き抜きたいと念じています。今年の大学推待パーティーにも、杖をひき出席する始末､老化はいよいよ進んでいます。それでも頭の方はボケず、70 年前の獨協時代を懐しく思い出す昨今です。母校の発展を陰ながら祈っています。　＜桜井保光（昭 17 卒）＞

●昭和 13 年ヒットラー・ユーゲントが來邦しました。その歓迎会が、平河町（当時）ドイツ大使館で行われました。当時、獨協中学２年生の私も同席を許され、その場で詩吟をうたったと思います。当時の様子は、週間アサヒ･グラフ（朝日新聞社刊）に大きく掲載されました。今から 75 年以前のことです。最近の獨協通信を見て思い出しました。　＜福本　理（昭 17 卒）＞

●私は今年 11 月 20 日の誕生日を迎えると、丁度 88 歳となります｡高齢の為何のお役にも立ちませんこと、大変恐縮に存じます。あと何年生きられるか存じませんが、昔の思い出を大切にして参る積りです。

＜古沢正雄（昭 18 卒）＞

●歯科医業を八十歳になりやめました。現在八十八歳を越しましたが、何とかがんばっています。同窓会で大変御厄介になっていますが、特に、相談役の御世話になっています。有難うございます。益々の御隆盛をお祈りします。　＜田中建吾（昭 18 卒）＞

● 87 歳、あちこちガタが来て日常生活にも支障を来し､同窓会の手助けも侭ならぬ有様で申訳ありません。若い人達のジャマにならぬ様、つつましく生きて行く所存です。　＜北村光夫（昭 18 卒）＞

●私共のように高齢になってきますと、過去のクラスメート達が次ぎ次ぎと亡くなって行きます。そうすると段々とクラス会も開催が難しくなってきて、最近は殆ど数年開かれておりません。従って、生き残りの有志数人は、云々でこれからは年１回開かれる獨協の総会・懇親会で会うようにしようと決めました。

＜松井元司（昭 18 卒）＞

● 1945･8･6 広島で１ｋｍ地点で被爆。硝子片で（ガラスの嵐）100 ヶ所位負傷すれ共、約６ヶ月にて完治した。内部被曝で放射能は残っていて、４年前に肺癌が発症。核兵器は勿論、原発の使用済ウランは始末に負えないもの故、原発廃止以外に無い。あらゆる核に反対。　＜尾崎守夫（昭 18 卒）＞

●私 87 歳になりました。年相応に暮しておりますが、何とか米寿を祝いたいと思っております。

＜高橋　宏（昭 19 卒）＞

●温泉に関わる法人２ヶ所で役員を務め、国民の健康増進、高齢者のＱＯＬ改善など、予防医学の面で仕事をしています。　＜植田理彦（昭 19 卒）＞

●獨協でドイツ語を学んだのが原点で、戦後外務省に入り、ウィーン、ベルリンなどに勤務し、最後は在ミュンヘン総領事でした。1989 年定年退職後、描いた小説「ミュンヘン狂詩曲」は、紀伊国屋書店の推薦図書に、また昨年始めたスポーツ吹矢は、どうにか初段になれました。　＜田村康三（昭 19 卒）＞

●老境を迎え体力の衰えをしみじみ感じて居ます。

＜永井福助（昭 19 卒）＞

●小生は昭和 20 年４年生で修了､繰り上げ卒業となったとされる者です。中学校を去るにあたっての記憶が定かではありません。卒后、東京大学付属医学専門部へ入学し、８月終戦を迎える。学制改革あり、同部昭和 25 年３月卒業。インターン終了し、東大分院小児科入局し、退局後、開業医として働く。

＜小板橋和夫（昭 20. 卒）＞

●獨協通信 80 号拝読、素晴らしい内容。執筆者・編集者に感謝。同窓会費の納入も徐々に上がってくるものと思います。昭和 20 年卆（５卆組）も生存者は卒業時の１／３と減ったようです。私自身は歳の割りに元気、学友と交友しながら楽しくやっています。同窓会の良さが少しでも分かるような歳になりました。学園に誇りを感じています。＜黒沼昭夫（昭 20 卒）＞

●平成 17 年に、顧問を最後に 50 年余勤務した山洋電気を退職。現在健康を維持するために、趣味の庭いじり・ウォーキング・旅行等で気儘に過ごしております。　＜鈴木清太郎（昭 20 卒）＞

●世界的大不況の 1929 年生まれ。獨協中学３年生からは学徒動員で赤羽兵器補給廠へ通う。月給取りを 50 年経たものの、余生は分かりません。

＜濱田寛治（昭 20 卒）＞

●祝創立 130 周年、後輩諸子の活躍を祈る。獨協卒業 68 年　齢 86 年。太平洋戦争開戦の年に入学、終戦の年に卒業。早大を経て、電気通信省→電信電話公社→ＮＴＴ民営化初年度の初代取締役就任后、大明株式会社（東京一部上場）代表取締役社長、会長、名誉顧問歴任。瑞宝中綬章を受章。

私の近況

＜齋伯　哲（昭 20 卒）＞
●昭和 20 年 3 月戦争末期に、獨協 5 年で卒業後、私達の世代は厳しい食糧事情の中に医学部生活を過し、昭和 27 年に慈恵を卒業して、昭和 41 年に当地で開業して今日に至っています。医師の倅から呆けない様にと、80 歳からパソコンでネットをする様になり、この頃は、夜更けまでパソコンの前にいます。最近は若い医師たちが電子カルテの前で患者さんの顔も見ないとの事。私が聴診器をつけて診ると不思議そうな顔をする患者さんがいます。時代が変わったと感じます。

＜鹿島正安（昭 20 卒）＞
●今年引退致しました。（長男）髙木道生（昭和 47 年獨協高卒）が跡を継いでおります。

＜髙木辰男（昭 20 卒）＞
● 80 歳を区切に開業医活動を停止。再開は、子供らの自由意志にまかせて早 4 年、時の流れに身をまかせている状態です。ボケ防止に月 1 回碁石を並べたり、「ホスピスの会」の動きに現実を感じて、取り残されないよう頑張っているつもりですが……。

＜桑原和彦（昭 20 卒）＞
●なんとか元気にしています。しかし年齢が 86 歳になったので、外出は控え目にしております。

＜林　昭（昭 20 卒）＞
●今はまだ週に 3 日臨床に従事しています。後の 4 日は趣味三昧の日々を過ごしています。まだ暫くは続けていけそうです。　＜神山一郎（昭 20 卒）＞
● 20 年卒英語科の同窓会（トロッコ会／ 38 回目）を、来る 7 月 7 日（日）に杉並のレストランで行ないます。もう 85 歳にもなり、なかなか出かけるのが困難な方が多くなりましたが、多分 10 名位の参加になると思います。昨年も 11 名でした。それまでは、大久間先生が必らず出席されていましたが、もうそれもならず、さびしい極みでございます。今年も自由に楽しく歓談できることを願っています。　＜石井　進（昭 20 卒）＞
● 2010 年 5 月、長男 井口正道（獨協卒）・嫁（皮ふ科医）に継承。小生も外来を手伝い、市立子育て支援センター発達障害診療所にも出向いています。

＜井口正美（昭 20 卒）＞
● 85 歳、現役で消化器（管）外科・内科を頑張っています。先日、慈恵獨協会があり、30 名程集まりました。残念乍ら、ここ 10 年程後輩が後に続いてくれません。淋しいです。是非、チャレンジして入って来て下さい。　＜根本達久（昭 20 卒）＞
●昭和 20 年 3 月卒業の独語組のうち、私共の 1 クラスだけが板橋の服部製作所へ勤労動員されました。結束固く、毎年クラス会をしていましたが、昨年、坂本敬三君が逝去され、万年幹事をしてくれた桂義行君と私のみとなりましたので、終に解散しました。長い間、同窓会からご支援を受け感謝しております。

＜加藤壽吉（昭 20 卒）＞
●現在、杖歩行ながら、まあまあ元気で週 3 日健康管理センターに勤めています。今年の畦森公望君の文章なつかしく読みました。私は英語科でしたが、獨協は栄しく良き学園だったと同感しています。　＜唐木清一（昭 20 卒）＞
●満 83 歳にあと 1 ヶ月で到着します。体調はまあまあですが腰が痛むようになり、好きな旅行は中止しております。せっかくの機会でしたが残念ながら欠席いたします。皆様方に宜しく御伝言下さい。

＜眞船　順（昭 21 卒）＞
●年齢まさに 83 歳です。職をはなれ悠々とはいきませんが、自適の毎日です。一昨年右大腿骨骨折、本年今度は左大腿骨骨折、怪我の連続で、体力の衰退が身に沁みる日々になりました。これからの晩年周囲にできるだけ迷惑をかけないよう全うしたいものだと思っています。　＜横井弘幸（昭 21 卒）＞
●中学を卒業して約 10 年後、私の結婚祝に仁戸田先生（4・5 年の担任）から「パンジー」の絵が贈られた。家の廊下に飾られたこの絵を見る度に、中学・仁戸田先生が懐しく想い出される。　＜堀川勝夫（昭 22 卒）＞
●獨協医科大学に 21 年在職し定年退職後、早くも 18 年になります。同大学は、今年で 40 周年を迎え、去る 4 月 23 日には記念式典祝賀会が盛大に行われ、誠に喜ばしい限りでした。唯し学内で、天野貞祐学園長や関湊理事長などを面識する人が少なくなり、寂しい感もあります。　＜高崎悦司（昭 22 卒）＞
●昭和 20 年 3 月 10 日未明及び同年 5 月 25 日未明からの、東京大空襲で同級生があまりにも悲しい被害にあった。亡った旧友の無念を思うと生かされている私たちは、彼らの分まで精一杯生きる責務があります。心の中では、まだ戦争は終わっていません。黒い十字架を背負って「生涯現」で生きぬきます。因に、昭和 20 年 5 月 25 日未明から大空襲の時は、丁度わがクラスが、校舎防衛の為に当宿でした。必死で手押しポンプで消火防火の為に、命をかけて守り通しました。

＜中山　暢（昭 23 卒）＞
● 2012（平成 24 年）・12・31 を以て、医院を閉院（廃止）しました。又、2013（平成 25 年）・3 月 31 日を以て、区・都・日本各医師会も総て退会しました。後片付けが大変で 5 ヶ月が過ぎようとしてますが、未だ半分程残っています。　＜岩間重夫（昭 23 卒）＞
●十八（トッパチ）会（S 18 年入学の同級生）を毎年催していましたが、高齢化に伴い数年前に幕を閉じ、現在は個々に声を掛け合い談笑している現況です。

＜麻井武明（昭 23 卒）＞
●拙稿　通信に掲載していただき、有難うございます。母校と同窓会のご発展を祈ります。機会をみて、友人と又おたずねしたいと思います。

＜橋本徳朗（昭 23 卒）＞
●昭和 21 年 4 月疎開帰りで、兄と同じ獨協中学で 3 年間お世話になり、新宿高校、東大経済を経て、海運会社の営業に携わり、2 年間シドニー駐在員も経験。定年後は、信販会社ほか数社で 70 歳頃まで働き、昨年 80 歳を迎え元気に過ごしています。（我家からは、

東京カテドラルも見えてます。あの隣りだったなと思ったりしてます。）　＜浅野祥三（昭 24 卒）＞

●１日３，５時間、週３回の皮膚科診療、オペラツァーを含めた年２～３回の海外旅行。音楽付朗読（メロドラム）にチャレンジ中、勿論ドイツ語で、獨協だもんねぇ！　＜本田光芳（昭 25 卒）＞

●八十歳台、穏やかな終末期を願ってきたが、昨年一月に家内が逝去、十月同居の長男が脳卒中（現在入院中）一寸先斯くの如し。　＜中村雅美（昭 25 卒）＞

●老体に鞭打って、毎日外来で診療を行っております。同窓会には時々出席しております。御盛会をお祈り致します。　＜平澤精一（昭 25 卒）＞

● 81 歳となり、東京 40 年・神戸 41 年の在住となり、このまま神戸に住むことになります。学友・親類・お墓全て東京ですが、阪神大震災の後退職し、家内の母と暮らすため神戸に来てそのままとなりました。同窓会には遠隔のため欠席となるのが残念です。

＜橘　泰（昭 25 卒）＞

●戦争中、戦後の学校生活は、今考えれば本当にいやな時代でした。でもその学生生活は、今考えてみてもいやなものであったと思います。平和な時代の学生生活は、どんな時でも大切にしなければなりません。

＜織田陽二（昭 25 卒）＞

● 2013 年３月３日（満 77 歳・喜寿）を迎えました。現在、世界のエネルギー情勢を分析しＨＰで発信中。趣味は宝生流能楽、エレクトーンの演奏等です。

＜渡辺嘉亨（昭 26 卒）＞

● 82 の独居老人。駅から遠い辺地で、土いじりや木工手仕事、そして、ごろ寝読書の日々です。そろそろ冥土への旅支度もしております。

＜中村草原（昭 26 卒）＞

●所沢在住ですが、阪神淡路大震災を機にスイミングを始め、ボランティアをしてましたが、今では腰痛・膝痛と共存し乍ら、マイペースで泳いでいます。

＜井上　猛（昭 26 卒）＞

●八十歳を過ぎますと身体の方々にガタが来ます。体力を少しでも維持しようと、近くのスポーツセンターで機械を使って筋肉の維持に努めています。又、脚の関節痛には、プールで水中歩行を行い少しでも和らげる様努めています。又、頭の方は呆け防止の為、毎日曜には囲碁を行っています。まあ老人の細やかな抵抗ですかね。　＜白水順三（昭 26 卒）＞

●ご多忙の中、毎度ご連絡をいただき有難う存じます。お懐かしい方々にお会いしたい気持ちは山々なれど、大病しており心と身体が思う様にならず残念です。ご出席の皆様に宜しく。ご健康をお祈り申し上げます。

＜青木繁明（昭 27 卒）＞

●歯科医師獨協会が発足出来て喜んでます。長年の夢でしたので、これから若い方々に運営していただいて、増々発展させてほしいです。実現にこぎつけた諸君に感謝します。　＜山本啓介（昭 27 卒）＞

●ここ数年来、私はパーキンソン病に罹りました。この病気は脳からの信号が手足の末端まで届かなくなり、手足の動作が困難になるのです。この文も指が動きにくいのでパソコンで打っています。また歩行も困難で、車輪付の歩行車で家の近辺を歩くのが精一杯なのです。　＜阿部　誠（昭 28 卒）＞

●最近本を読むのに時間がかかります、なぜか？？読み終わった前のページ、イヤイヤ一行前を忘れるからです。でも元気でおります。中学・高校時代をよく思い出します。大和路から皆さんのご健勝を祈ります！！　＜赤堀光男（昭 28 卒）＞

●年齢の所為か疾病の為か、ちょっとした坂道や階段でも氣息奄奄。盛年重ねて來たらず、少年老い易く学成り難し、などの教訓が身に沁みる今日この頃です。

＜藤田吉若（昭 28 卒）＞

●平成 25 年３月 20 日・21 日　昭和 30 年卒（英語科）幹事長畑茂君、大磯光弘君、丸山幸三郎君、森田孝君、宮井康行君、梅田博（本人）１泊２日で静岡県熱海市、熱海温泉ホテル大野屋で年１回行われる行事として同窓会を 77 歳喜寿なのでやりました。大分、同窓生が亡くなっているので、まだ元気なうちに今年２回目を１泊２日～２泊３日の予定を 11 月中旬頃、伊豆の方の温泉で行う予定であと２～３人増えるかもしれません。以上、最近の報告とさせて頂きます。

＜梅田　博（昭 30 卒）＞

●レコードメーカー定年後、実家の茶販売店を経営、現在に至っております。大病もせず、健康に過ごしております。　＜鈴木仙十郎（昭 30 卒）＞

●２年前から身体を悪くしております。失礼します。

＜宮崎富美雄（昭 30 卒）＞

●アメリカオレゴン州ポートランド市に現地販売会社（ARAKAWA HANGING SYSTEMS USA INC.）を経営しており、例年４～５回日米を往復しております。

＜打矢之威（昭 31 卒）＞

●私共 31 年卒業ドイツ語クラス年々物故者が多く、現在生存者 12 名です。残念です年１回クラス会を開催しておりますが、毎年物故者がいるため年２回の開催を行う事にしました。私の会社は後継者が頑張って仕事を遂行しております。今一番の楽しみは、軽井沢の別荘で週末を妻と一緒に過ごす一時です。

＜小倉宗武（昭 31 卒）＞

●歯科医師獨協会の日本大学歯学部の世話人をしています。昨年文化祭に久振りに母校をたずねました。私達の時と較べ校舎が新しくなった事と、活気ある父母、生徒達、又訪問者の多いのにはびっくりしました。今歯科界が元気がないので、学生達に人気がないようですが、10 年・20 年先を見ると安定した職種です。母校の益々の発展をお祈り致します。

＜滝川国勝（昭 32 卒）＞

●小生、74 歳になった現在も歌手としてジャズ・ポップスを唄って居ります。毎年、クリスマスには神田如水会館でディナーショーを行っています。
又、東急カルチャースクール自由ヶ丘にて、毎月第２・

第４水曜日スタンダードジャズ・ポピュラーの歌を唄う教室で教えております。銀座ライブハウス「月夜の仔猫」で、６月・８月第４水曜日、7：15～10：30出演、03-5573-3651。由起　真（ユキ・マコト）の芸名です。　＜滝沢真佐之（昭33卒）＞

●【昭和34卒の高貴高令者・あゝ九百の健男児達に告ぐ】諸君、目白関口台の緑と桜、校歌の右手に桜花・左手にロールベール花。覚えてるか。そしてご健在か。古間様に迷惑かけてないか。 残るは直線コーナーのみ。誇りある獨協男児として人生のテープ切りたいもの。散る桜、残る桜も、散る桜。

～御同輩達よ、目白関口台でいつか逢おう～

＜中山政美（昭34卒）＞

●元気に生活しています。先日富士山中湖ロードレースを完走して来ました。（先月73歳になりました。）

＜老川　武（昭34卒）＞

●平成24年２月に初期の喉頭癌を患い、放射線治療にて完治し元気です。72歳です。地域の区長として頑張っています。　＜西手秀行（昭34卒）＞

●４年前にリタイヤし、その後は趣味でやっていたハワイアン音楽をやってます。ライブ活動やウクレレを教えたりしています。　＜永井喬一郎（昭35卒）＞

●参議院議員公設秘書から、地元文京区議会議員３期、その後、文京区選挙管理委員会委員長等を歴任後、引退、退職。以前よりの、株式会社ヒダ商事に伴り、賃貸マンションビル建設。引退後の事業として継続、代表取締役。古希を過ぎる事３年、急に体力の減退と、身体の諸方に不都合を生じる事夥しい昨今を過ごしている有様です。　＜樋田修廣（昭35卒）＞

●週１回のゴルフを楽しみ、元気にしています。

＜浅沼　博（昭35卒）＞

●昨年９月、東京蒲田病院・院長を拝命。東邦大学評議員、東京医科大学監事、中央労災委員、日本泌尿器科学会も拝命。　＜松島正浩（昭35卒）＞

●日本山岳会「高雄の森づくりの会」会員として活動。（http://JAtakao.net）よろしく

＜宮本正彦（昭36卒）＞

●病気になって、完全に引退して今はリハビリもかねて、体操や歩くこと等をやっています。又、現役時代に昔行ったとこ、まだ行ったことないとこなどの名所巡りも心がけています。　＜青木達也（昭36卒）＞

●役員の皆様ご苦労様です。私も大学の同窓会にはちょっと関与していますが、会費徴収には苦労しています。私達のクラスは、毎年クラス会を行っており、毎回20名近くが出席し、楽しい会になっています。個人的には、今年70歳（古希）ですが、まだバドミントンを現役として健康のため週２日おこなっています。若い人達が会費を払ってくれるよう願っております。　＜髙取　亨（昭36卒）＞

●私は、中学時代は学校代表の走者で、高校でも陸上競技をするつもりで法政二校を受験合格。ところが、中学３年の国語教科書に天野貞祐学長の「祐」が、私の良祐と同じで２次試験にて入学。新聞部・学友会等で天野校長とは何度か接しました。周囲が神様扱いをしてましたが、大変ラフな人柄。優しい人でした。

＜前田良祐（昭37卒）＞

●古希を迎え、１～７組までの発起人が集まり、卒業後初の同期会兼古希を祝う会を計画中です。

＜山本康雄（昭37卒）＞

●我々昭和37年卒業生は、今年古希になり、各クラスで行っていた同期会を合同。古希記念同期会で10月20日原宿の南国酒家で行うべく、現在発起人13名により、現住所の確認作業を行っており、住所不明の方、お知り合いの方いれば、是非お知らせ下さい。昭37年卒「古希記念同期会」発起人代表　TEL 03-3401-5802　携帯090-3513-7226

＜橋本設夫（昭37卒）＞

● 69歳テニスの大会に出場してます。昨年（2012年）は横浜市民大会年齢別で準優勝、今年はベスト４、現役で各大会に出ています。クラブ会員140名程ですが、毎日メンバーとコート上を走り回っています。最近は私のテニスクラブの年齢層も60歳以上が多くなってきています。私のクラブの近くにお住まいの方、プレーを望む方、ご一報下さればビジターＯＫです。

＜金井謙次（昭38卒）＞

●名前だけの代表取締役をしています。自宅の教室で週２回書道教室を開いています。かつては、読売展・日展（第38回入選）で活動しましたが、現在は静かにしています。獨協大で始めた空手（公益社団法人日本空手協会７段）も50年になります。今は週１回近所の区の施設で子供達に空手道の指導を続けています。江戸川区のライフル射撃連盟の理事長をつとめて、下手な射撃（標的射撃）を楽しんでいます。10ｍのエアライフル、50ｍＳＢ射撃、300ｍＬＢ射撃の３種類をやっています。　＜千葉常昌（昭38卒）＞

●現在まだ現役で自分の会社を経営しております。古希までがんばる所存です。身体の動くうちは社会と接点を持ちながらやって行こうと思っております。既に獨協を卒業して50年、その時の仲間ともたまに会って酒を飲んだりして、昔の青春時代を楽しんでおります。　＜朝山一成（昭38卒）＞

●最近は葬儀関係一本に縮小し、社員も徐々に辞めてもらい、今はアルバイトを忙しい時に数名頼みながら、一人で商いをしております。仕事の内容は、葬儀の手伝いとそれに関る商品の納入をしております。（お香典返礼等）

10月20日はなつかしい顔と会えるという事で楽しみにしております。（同期会で）高校時代の友人も、今は年賀状のやり取りを含めて７～８人になってしまいました。健康状態も優とはいきませんが、一病息災で元気にしております。仕事も後５～６年は頑張るつもりです。　＜小山憲雄（昭38卒）＞

●今年は毎月１回第二水曜日開催される「浅草へら鮒会」で、１回優勝を目指し、頑張って会場となる釣場

をうろついております。　＜五前國明（昭 38 卒）＞

●9年間務めた町会長を4月に交代致しました。地域の町会長の子弟に沢山の獨協卒生がいるのに驚きました。　＜中川眞之介（昭 39 卒）＞

●やっとあと一本で今年の酒の仕込みが終わります。各界の旧友達との再会ならぬは残念ですが、元気で居れば時に邂逅もあるでしょう。お元気で。

＜宇都宮繁明（昭 39 卒）＞

●昨年、ドイツ（独逸）ビール祭りに行き、1週間ミュンヘンに滞在して、富岡、オット酒井先生に教えられたドイツ語が話せた事が楽しかったです。ドイツ人の方は、バイエルサッカーの為か、日本語も理解してもらいました。　＜原田誠人（昭 39 卒）＞

●学校で学んだドイツ語、そして日本語、趣味の楽器演奏等を幅広く色々な人へボランティアとして教えています。中学・高校在学中に天野校長先生から教示戴いた朝礼でのお話は、その後、社会人としての人々との触れ合い、秩序への規範として、大切な指針となりました。今後も更なる校風伝統を引き継ぎ、発展して行く事を願って止みません。　＜大郷泰生（昭 40 卒）＞

●一昨年（H 23 年）6月末で退職し、現在は、登山・テニス・水泳料理等をのんびり楽しんでいます。

＜野上秀雄（昭 41 卒）＞

● 40 年間勤務したホテルを定年退職し、同ホテルで雇用延長し、仕入れ部門で再就職6年目です。

＜尾崎健一郎（昭 41 卒）＞

●健康に恵まれ、地域医療に従事致しております。

＜伊藤　旺（昭 41 卒）＞

●私ワンダーフォーゲル部で 41 年卒業ですが、同期の仲間が平成 23 年 11 月に亡くなりました。又、平成 24 年5月また1人、半年の間に2人も亡くしました。同じ年代で同じ飯を食べた人がいなくなり、とても寂しい事です。亡くなる平成 23 年 10 月 16 日に同期8名で会った矢先でした。誠に残念な事です。

＜岸　房孝（昭 41 卒）＞

●平成 25 年3月で北里大学医学部主任教授を退任いたしました。4月より同名誉教授を拝命いたしました。そして、学校法人湘央学園湘央生命科学技術専門学校に教務部長として勤務しております。

＜相馬一亥（昭 41 卒）＞

●①会社員生活 40 年を超えましたが、現在（週5日フルタイム）勤務、海外出張も2回／年程度有り。②名古屋工業大（院）の非常勤等（含客員研究員）10 年近く行っています。　③その他、学会（経営系、理工系〈化学工学会、電子情報通信学会〉等）活動も行っています。　④異業種交流会、ＮＰＯ活動への参加もしております。公私共に楽しくやっています。

＜松田　順（昭 42 卒）＞

●好きなテニスを生きがいに、老体にムチを打ってサラリーマン生活の最終コーナーを走っています。

＜伊藤和雄（昭 42 卒）＞

●ユーシービージャパンを定年退職し、現在はジェネリック医薬品の製造販売承認申請に必要なヒトにおける生物学的同等性試験という臨床試験を行っています。ジェネリックメーカーから受託し、臨床試験を行い、申請書を作成するのが業務です。

＜青木左千夫（昭 42 卒）＞

●昭和 42 年独語クラス卒業の若山です。埼玉県眼科医会会長として、第 49 回関東甲信越眼科学会を開催します。その準備でいつもより多忙となっています。

＜若山　久（昭 42 卒）＞

●三井住友銀行を定年退職しました。

＜大原政光（昭 43 卒）＞

●Ｓ 43 年卒業して 45 年、自分でビックリする程、時は経ちました。旧友の顔、恩師（担任）太田先生には成績悪く注意され、低空飛行もこれでなかなか大変なんですと答えたことは赤面の限り。母校の前に立つと想い出されます。　＜村上　順（昭 43 卒）＞

●昭和 44 年卒の同窓会はあるのでしょうか？卒業して 44 年、還暦を過ぎて昔を懐かしむ年令になりました。楽しかった獨協高校の3年間は最高の思い出です。

＜笹山　健（昭 44 卒）＞

●世田谷区内で「いなせなおやじ塾」という団体に所属して活動しています。主に 40 代～ 60 代のおやじが主体となって区内の行事に参加して、子供の行事には屋台を出したり、年2回1泊旅行をしたりしています。参加資格は、区内在住か在勤であり男性である事だけ、会費等は特に集めていない！！

＜伊藤潤一（昭 45 卒）＞

●父が開業医だったので、昭和 42 年広島から単身上京、憧れの獨協高校へ進学、そこで出会ったのが「演劇」でした。その後は文学部へ進学、狂言作者として、お芝居の世界で生きることになったのです。当時は反対もあったのですが、今では、私にすばらしい夢を見させてくれた獨協高校に感謝しています。

＜竹田清治郎（昭 45 卒）＞

●中学の2年間剣道部、3年間ブラバンでクラを、6年間はグリーに所属。文化祭での歌声喫茶が懐かしい想い出。現在教科書会社に勤務(39 年)。出版労連「とりの歌」に所属し、合唱を愉しんでいます。

＜青木秀夫（昭 45 卒）＞

● 61 歳になり、自主的に停年退職して、今は、世界中を旅しております。6月23日に New York から帰ってきましたが、New York には、獨協大学の同窓会があり、総勢 80 名というすばらしい会になっています。その中には、獨協中・高校の卒業者も多く、今でも、獨協卒の諸氏が活躍しているのが非常に嬉しかったです。New York の獨協同窓会の会長は、沼田忍氏が尽力されており、本当に良い同窓会となっております。今後も出来る限り、地球をぐるぐるまわるつもりです。

＜何合泰源（昭 46 卒）＞

●日本橋で法律事務所を開業しています。弁護士登録 30 年となりました。長女は社会人、二女はウィスコンシン大学への交換留学から帰国しました。

＜戸崎　透（昭 47 卒）＞
●ＮＳＴ、摂食・嚥下リハビリテーション普及のために日夜、孤軍奮闘、努力しています。
＜岩崎克夫（昭 48 卒）＞
●筑波大学欧州事務所（ボン、ＤＡＡＤ内）の責任者を務めており、年に１～２回ドイツに行っています。ドイツ語での会話も怪しくなっており、英語になってしまうことも多いのですが、なるべく現地ではドイツ語を使うようにしています。　＜松村　明（昭 48 卒）＞
● 48 会と称して、毎年 10 月に同窓会を開催しております。既に、20 年以上は続いていると思います。今後は写真と原稿を持っていきますので、通信に掲載を宜しくお願い致します。＜林　清方（昭 48 卒）＞
●市役所を退職し、現在再就活中です。趣味で独語会話をＮＨＫ講座で学んでいますが、娘が外国人と結婚をしたため、英会話が『必修科目』となり、独語会話の勉強は一時？中断しています。Hi there !! How are you？　＜田原理一郎（昭 48 卒）＞
●近眼に老眼が入っての不便を自覚して８年、膝関節の痛みが出現して３年、かかとの角化亀裂が２年、若い頃は他人事と思っていたことが、我が身にふりかかるとは、トホホの毎日です。　＜大島康成（昭 48 卒）＞
●４月中旬頃より、順天堂大学付属順天堂医院に入院加療中です。心筋梗塞の手術後、順調に快方に向かっている様子です。　＜飯島喜浩（昭 49 卒）＞
●伊豆大島で「ホテル椿園」旅館を経営しております。是非遊びにいらして下さい。長女は結婚して目白に住んでおり、次女は獣医師になりました。
＜清水豊典（昭 49 卒）＞
●開業地が神奈川県小田原市から東京都東大和市に変更となりました。近隣の皆様、よろしくお願い致します。　＜斉藤勝一（昭 50 卒）＞
●獨協医科大学創立 40 周年。母校父母会「桜杏会」会長に就任しました。　＜石川　仁（昭 50 卒）＞
●獨協学園出身の慈恵医大同窓会（慈恵獨協会）を毎年開催しております。同会は 110 名の多くの会員が所属しており、永野允名誉教授をはじめ、現職の教授・准教授・講師も多数おられます。当会は、今後、獨協学園在校生やＰＴＡさらに獨協同窓会とも親交を深めて参りたいと存じます。　＜稲葉　敏（昭 50 卒）＞
●今年４月に、次女が獨協大学法学部に入学させて頂きました。もちろん第一志望でした！獨協学園に父娘そろってお世話になります。今後ともよろしくお願い致します。　＜梅津英幹（昭 50 卒）＞
●今年四月より、四代目となる息子と共に歯科診療をしております。　＜生田　哲（昭 50 卒）＞
●製薬会社勤務 32 年目、薬剤師有資格者として総括製造販売責任者をやっております。木村重利先生を囲む会で同級生が久しぶりに集まりました。卒業後初めて再会した友人もいました。また集まりましょう。
＜千葉昌人（昭 51 卒）＞
● 50 歳をこえ、身体が徐々におとろえていっていることを感じるようになりました。少しでも長く元気で仕事ができるよう、毎週末運動するよう努力しています。　＜石神　勉（昭 51 卒）＞
●現在、東京都荒川区で内科開業医として地域医療に心血を注いでいます。「I LOVE DOKKYO」のシールを作成し、診療所に貼っています。多くの卒業生が「獨協ですか？」と聞いてくれるのがうれしいです。
＜谷田貝茂雄（昭 51 卒）＞
●先日、約 30 年振りに、同級生の川島真人君とバイクで走ってきました。中学３年間､同じクラス（３組）で、同じ東武東上線沿線だった。残念ながら亡くなってしまった伊藤文男君とは、よく池袋などで寄り道して帰った仲でした。現在、私が居住している、伊藤君の実家のあった志木へ、わざわざ出向いてくれて、なつかしい喫茶店「ハニー」へ。二人でなつかしい話に花が咲きましたが、またいつ会えるのやら、なんにせよ楽しい時間が過ごせました。
＜久志本明人（昭 52 卒）＞
●獨大法学部クラス会は３ヶ月毎、ゼミ会は年１回、獨医大クラス会は４年に１度やってますが、獨協高校クラス会は誰が監事なのか､全然やっていない気が…。
＜曽谷村泰弘（昭 52 卒）＞
●開業して６年目を迎えます。先日は、剣道部ＯＢ会が開かれ、20 年振りに会３同期生と楽しい時間を過ごしました。母校の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。　＜立原弘章（昭 52 卒）＞
●昨年、平成 24 年 10 月より、下記に勤務先が変更になりました。恩賜財団済生会神奈川県病院（糖尿病内分泌内科部長 兼 総合内科部長）
＜大江健二（昭 53 卒）＞
●北信州で循環器内科を開業して 10 年になります。昨年秋に胃ガンで胃切除術を受け、人生が有限であることに気づかされました。　＜長谷川　悟（昭 54 卒）＞
●日本ボクシング連盟の医事委員長で常務理事であり、国際ボクシング協会のコミッションドクターとしても、ボクシング競技に携わっております。
＜山口　壮（昭 54 卒）＞
●去る５月 28 日（日）、杉並獨協会が開催され、主に杉並区在住の皆様と懇談することが出来ました。金有一先生はじめ諸先輩方と久し振りにお会い出来、楽しい時間を過ごさせて頂きました。仕事の方は、相変わらず忙しくしております。保育園や特養、防災やまちづくり等々、身近な自治体としてやらねばならないことがたくさんあります。国政での憲法や統治機構云々という議論が、私たちの現実の生活に関わる諸課題の解決に一体どうつながっているのかわかりませんが､そこが明らかにならなければリアリティの無い「政争の具」に見えてしまうのではないかと近頃よく考えるところです。まもなく都議選ですが、足立区の高嶋なおき先輩が出馬しますので、微力ですが応援したいと思います。　＜田中　良（昭 54 卒）＞
●会社代表辞任後、企画開発アドバイザーをしていま

す。特に、再生医療製品開発は実務経験に基づいたアドバイスを行っております。Facebook にも載せています。　＜北川　全（昭 55 卒）＞

●今年で 50 歳となります。会社員生活を健康に続けております。今でも定期的に獨協の仲間と飲食、ゴルフと楽しんでおり、獨協仲間最高 !!

＜嵯峨和彦（昭 58 卒）＞

●イタリア・スイス・ドイツでの獨協柔道部合宿が最大の思い出です。現在、東京都足立区本木でライブ薬局を経営しております。　＜福澄重泰（昭 61 卒）＞

●米国ニュージャージ州在住、最近ドイツのミュンヘンにも営業所を開設したので多忙です。一人息子は、９月（帰国子女）と来春の大学受験で猛勉強中。

＜山路剛史（昭 61 卒）＞

●株式会社建設技術研究所／東京本社総務部に勤務しております。今年４月より公益社団法人土木学会に出向しております。現在調布市に在住です。家内と息子８歳と娘５歳がおります。獨協中学から高校まで、６年間お世話になりました。部活動はしておりませんでしたが、高校時代の同級生とは交流を持っております。卒業後四半世紀近く経ちましたが、担任の井上先生をはじめ、皆様がお元気でいらっしゃることを祈っております。　＜橘　裕人（平２卒）＞

●４月より実家の診療所で開業医として働きながら、大学で専門外来を担当しています。まだ慣れないですが頑張っています。　＜小林　憲（平４卒）＞

●平成 25 年５月 25 日、長男「祐一」が無事誕生しました。美しき月夜に生るる新樹哉　産院の汗とりまでも清らけし　＜春宮淳一（平７卒）＞

●皆様お健やかにおすごしの事と存じあげます。現住所の変更を届けさせて頂きましたので、宜しく変更のほどお願い致します。ハワイと日本を行ったり来たりが続いており、今年も総会に出席出来ません。獨協の益々の繁栄を心より祈っております。

＜鈴木俊弘（平９卒）＞

●外来、手術以外にも、論文投稿、学会発表と多忙ですが、充実しています。　＜星野　剛（平 10 卒）＞

●公認会計士として、監査法人・税理士法人での勤務等をしております。日々の業務を通じ、専門家として自己研鑽の努めております。　＜望月　崇（平 11 卒）＞

●獨協での青春時代から早 12 年、節目の 30 歳を迎えました。今はサラリーマンですが、将来ドイツとの架け橋となる仕事に就くべき勉強中です。

＜松本憲昌（平 13 卒）＞

●今年度４月より、杏林大学病院神経内科に勤務しています。　＜永井健太郎（平 14 卒）＞

●『獨協通信』いつも楽しく読ませていただいております。私は長崎大学医学部５年生で、病院実習の毎日です。健康でいられることのありがたさを痛感してます。長崎の風土や人々とのふれあいを大切にしながら、これからも学生生活を大事にしたいと思っております。東京へ帰れる回数が、年々少なくなりました。

＜菊田　龍（平 16 卒）＞

●今年、薬学部を卒業し、国試にも合格し薬剤師となりました。しかしながら、免許が必要な仕事ではなく、医薬品製造販売業で営業活動をしております。

＜松平響平（平 17 卒）＞

●本年より、東京歯科大学大学院歯科保存学講座へ入学しました。診療・研究・勉学に励む日々です。

＜佐古　亮（平 18 卒）＞

●滋賀医科大学医学部医学科２年在学中。合気道部に所属しています。　＜松井太瑠日（平 18 卒）＞

●今春、大学を卒業し、富士ゼロックス東京に営業職として入社しました。７月まで研修があり、その後配属になります。期待と不安が入り混じる日々ですが、毎日充実しています。　＜宮島　全（平 19 卒）＞

●現在、大学院博士後期課程で研究をしながら、陸上部で後輩と一緒に走っています。発表で海外に行ったりと充実した日々を過ごしています。

＜田中嘉法（平 19 卒）＞

●東京医科大学６年となり、国試に向け毎日勉学に励んでいます。最後の学生生活になるので、部活などを含め、学生のうちしかできないことも精一杯やりたいと思っています。　＜村松孝洋（平 19 卒）＞

●大学院で、液体の物理について研究をしています。研究の合間に獨協の友人と会うのがとても楽しく、研究の励みになっています。卒業後も、こうして仲良くできる友人たちに恵まれて幸せだなと思います。

＜小池健人（平 20 卒）＞

●大学３年生になり、工学部航空宇宙工学科に進学致しました。学祭（五月祭）ではＪＡＸＡの無人超音速機についてのパネル・展示を説明してきました。

＜小島隼一（平 23 卒）＞

●中学３年から高校２年まで、獨協で学んだドイツ語は、大学に入ってからも息子の世界を大きくひろげてくれました。ドイツ人留学生との交流、ドイツチャーリンク、ドイツライン会に入会して活動しております。息子の机の上には、ドイツ語トレーニングという本で勉強している形跡もみられます。ドイツからの留学生との会話では、獨協で学んだドイツ語が、洪水のように湧いてくるとか。ドイツ語学科の先生方、心より感謝申し上げます。　＜久原　啓：母（平 23 卒）＞

●東京大学へ進学し、新しい環境にもすっかり馴染めました。現在は第二外国語のロシア語と格闘しつつ、趣味で関東各地を散策しています。

＜相馬郁人（平 25 卒）＞

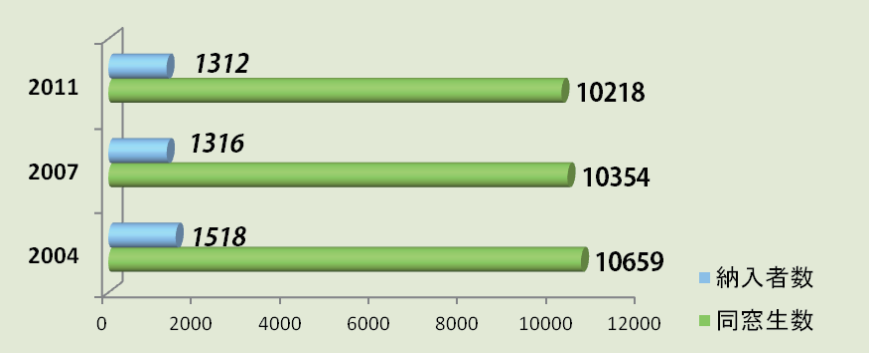
●学校から課題やレポートが出されるようになり、忙しくなってきました。大変ですが楽しいです。

＜福安元平（平 25 卒）＞

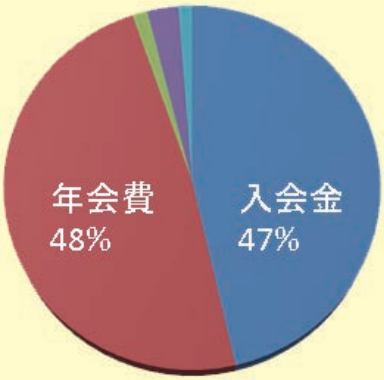
●明治大学に入学し、毎日新しい発見をしています。今年から新たに設立された、中野キャンパスで来年の留学を目指して精進してまいります。

＜塚口　誠（平 25 卒）＞

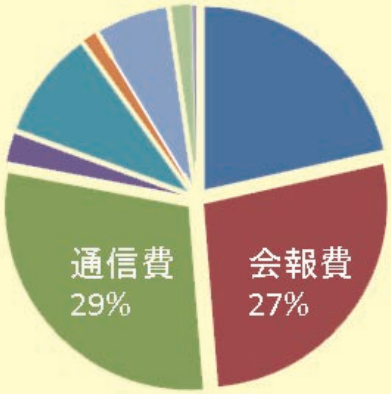
年会費納入にご理解とご協力をお願いします



現在、年会費を収めて頂いている同窓生の割合は、12 ～ 14% です。
卒業年度別にみると、最多納入者学年は、昭和 53 年卒の 44 名。
最少納入学年は、平成９年卒の４名でした。



収　入



支　出

年会費￥5,000 を 1500 名の同窓生からお支払いいただけば ￥7,500,000 ／年 の収入となりますが、1300 名を上回る程度にとどまっているのが最近の傾向（収入の 48％）で、獨協通信作成費＋通信費（年 2 回）の支出予算（56％）を下回っています。入会金（収入の 47％）を中学入学時にお支払頂いていることで、その不足分と学校への支援・寄附などをまかなっているのが現状です。

高校卒業時に新会員から年会費４年分を収めて頂くことも検討されており、また一方では、各運営委員が経費節減に向け日々奮闘しています。

今後の同窓会事業をより活性化できるように努力してまいる所存でおりますので、どうか同窓会運営の財政難にご理解をいただき、年会費のご納入にご協力いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

年会費　￥5,000

同封の振込用紙でコンビニ・郵便局・金融機関からご納入ください。

お詫びと訂正　　80 号「クラス会だより」において誤植がありましたので訂正しお詫び申し上げます。
P.17 右段３行目　（誤）西派由恭 →（正）西原 由恭

編集後記

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□（竹文）